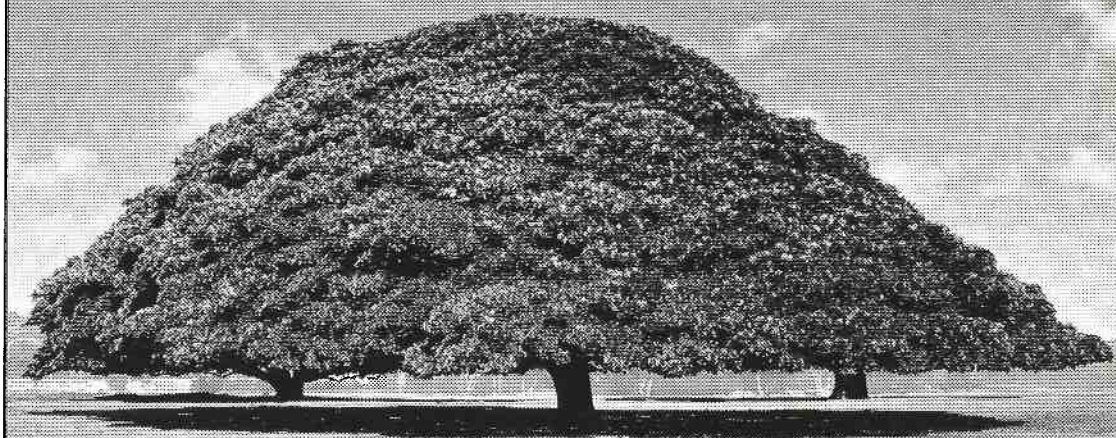


 **HITACHI**
— 技術の日立 —



最先端の技術を使って
暮らしに新しい便利さや楽しさを
ビジネスに創造性や高い生産性を実現すること。
それが、人と技術の理想をめざす
日立の「インターフェイス」の願いです。

Interface

インターフェイスは、「人と技術の理想をめざす」日立のスローガンです。

1991年

広島でアジア選手権大会を開催

日本ハンドボール協会

専務理事 安藤純光

昨、1989年8月北京において開催された男子第5回、女子第2回アジア選手権大会の開幕を控えて開催された。アジア・ハンド

ボール連盟 (Asian Handball Federation・AHF) 理事会において、日本が提案していた1991年に開催される男子第6回、女子第3回アジア選手権大会を提案の通り、広島(日本)で開催することが決定された。

アジア選手権大会は、過去1977年にクウェートにおいて第1回が開催され、1979年に第2回が南京(中国)において、1983年に第3回がソウル(韓国)において、1987年に第4回がアンマン(ヨルダン)においてそれぞれ開催され、このとき女子第1回が同時に開催されている。

アジア連盟の加盟国の一員としての広島(日本)の開催は、その責任上おそくとも早すぎることはない当然の開催であろう。これとは別な意味で、アジア連盟専務理事 Syad Abul Hasan 氏の言葉をかりれば「第3回のソウルそして第5回の北京がそうであるように、アジア競技大会の開催が決定している国が、いわばリハーサル大会として選手権大会を開催する方式ができあがりつつある。広島での開催もこの方向にあるので、好ましいことである」ということもある。すでに1994年に広島においてアジア競技大会を開催することが決定し、準備が進められている。さて、いずれにしても日本ハンドボール界

の50年を越える歴史の中で、かつて経験のない最大級の国際的なイベントを迎えることになった。

しかもこの大会は、1992年のバルセロナ・オリンピックのアジア代表の座をかけるアジア予選を兼ねる大会でもある。これを機に、かつて座したアジアの King・Queen の座をとりもどし、5連続オリンピック出場を誇りとするわが男子ナショナルチームが、さらに6連続へ、そしてモントリオール以来途絶えている女子の出場も果たさなければならぬ課題である。

1991年に開催されるアジア選手権大会は、8月下旬から9月1日(日)を最終日として、約10日間にわたって開催されることになっている。また、参加国としては、男子12ヶ国、女子6ヶ国が予想される。

大会開催にあたっては、開催地である広島県・広島市、そして広島県ハンドボール協会・広島市ハンドボール協会の諸機関、関係諸兄の絶大な協力を得なければ、大会の開催への道は開けないし、達成することはできない。

そして、さらに全国のハンドボール関係者の力強い協力と支援を得なければ遂行できない大事業である。

開催地である広島の関係諸兄をはじめ、全国の各関係諸兄の理解と大きなご協力をお願い申し上げます。

一瞬のきらめきと

積極果敢な

チャレンジャー

誰もいないグラウンド、音のない体育館。そこにスポーツという魔法がかかると、一瞬のうちに興奮のつぼと化してしまう。

セノも誇り高きチャレンジャー。より良質な素材を求め、より精巧な製品を生み出す努力と情熱は、世界中のプレイヤーの額に光る一粒の汗と同じです。

日本ハンドボール協会検定工場

Senoh®

本社/東京都千代田区神田司町2-7 ☎(03)292-5411

第41回全日本総合選手権大会

大崎電気が2年連続のアベック優勝

第41回全日本総合選手権大会は12月21日から24日までの4日間、東京・駒沢屋内球技場、駒沢体育館で開催された。

男子は16チームが参加、決勝戦は昨年と同じく大崎電気対湧永製薬の顔合せとなった。試合は雪辱を期する湧永が一時6点のリードを奪ったが、後半のなかばから全く攻めあぐみ、大崎の大逆転を許した。

一方の女子は、大会前の予想通り大崎の強さが際立ち、決勝戦は先の日本リーグで2位になった大和銀行との対戦となったが、金、尹の両選手を軸とした圧倒的な得点力で快勝、3連覇を飾った。

大崎電気は、これで昨年に続き男女アベック優勝という「有終の美」を飾った。

男子

1回戦

湧永製薬 55 (2629 | 17 | 8) 15 自衛隊 横須賀

〔戦評〕前半5分まで湧永リードの静かな立ち上がり。ここから自

衛隊横須賀にオフエンスミスが続出。湧永は速攻の連続で15点を連取。

瞬間的なプレーのスピード、読み、シュート力など両チームの差は大きく、自衛隊も単発的にだがいいシュートを決め、清一杯のプ

レーを見たがゲームにならなかった。辛いゲームを最後までよく健闘した。

得点	0	0	1	2	2	7	3	0	0	0	0	0
自衛隊	田山	原上	藤武	田川	田村	木						
湧永	田卷	原村	田井	川沢	取塚	原						
得点	0	0	5	0	10	9	8	1	12	1	8	1

GK F P (審・後藤) 15

トヨタ 28 (1513 | 1313) 26 日大

〔戦評〕立ち上がりからトヨタは日大のポストプレーをよく防衛して攻撃リズムを崩す一方、川田のミドルシュートを軸に得点を重ねて5-0とリードする。

中盤、攻撃を立て直した日大はコンビネーションの良い攻撃で、粘り強く、徐々に追い上げ、前半終了直前には逆に1点リードするが、結局同点となって後半へ。後半は、両チームともに一進一

退を続けたが、23分にはトヨタが3点差をつけ、追いつがる日大をふり切った。

得点	0	0	2	4	5	4	7	0	0	1	3	0
自衛隊	日堀	鬼雨	杉渡	吉丹	西加	鮎野	井					
湧永	井森	井田	井江	西村	本上	元						
得点	0	0	10	6	0	7	0	1	0	0	4	0

GK F P (審・岡本) 26

大同特殊鋼 35 (1817 | 1110) 21 福岡教員

〔戦評〕前半の立ち上がり、大同は3連続得点で先行し、ペースをつかんだ。一方福岡教員は、サイドシュート、反撃速攻と対抗したが、17-10と大同の7点リードで終る。

後半に入り、またも大同は4連取で好スタートを切った。福岡は大同・明石に対するマンツーマンの守りも通用せず、大同の地方の勝利に終わった。

得点	0	0	7	1	2	3	0	2	0	2	4
福岡	七澤	野山	牧古	塩藤	白平	早					
大同	吉中	藤村	生	石	藤	萬	取				
得点	0	0	10	2	1	5	11	0	0	5	1

GK F P (審・川島) 31

日新製鋼 35 (1916 | 1214) 26 バームビル

〔戦評〕立ち上がりから両チームとも巧みにポストプレーを利用して得点をあげた。特にバームビルクラブは、大型ディフェンスの日に新に対し息の合ったパスプレーを展開し、前半はほぼ互角のゲーム展開で終了した。

後半に入り、日新ディフェンスはフォロディフェンスが良く、バームビルクラブの走りのプレーをうまく押え、逆にバームビルクラブのミスからうまく速攻につなぎ、得点を重ねていった。得点差は開いたものの、最後まで全員一

得点
 0 | 0 | 5 | 8 | 2 | 2 | 1 | 4 | 1 | 3 | 0 || 大同 | 庄間 | 島江 | 嘉垣 | 原里 | 舎 | 城 | 城 | | | | |
| 得点 | 0 | 0 | 5 | 6 | 4 | 2 | 5 | 1 | 4 | 3 | 1 |

GK F P (審・林) 26

新日 35 (2056 | 4251) 4

〔戦評〕前半は両チームともに一進一退を繰り返したが、後半は新日

得点
 0 | 0 | 5 | 6 | 4 | 2 | 5 | 1 | 4 | 3 | 1 || 新日 | 川田 | 山本 | 斐井 | 田本 | 田中 | 村 | | | | | |
| 得点 | 0 | 0 | 5 | 6 | 4 | 2 | 5 | 1 | 4 | 3 | 1 |

GK F P (審・佐藤) 35

丸となって、走りの展開をした。P
ームビルクラブの健闘を讃えたい
本田技研 鹿 42 (2022-11) 20 クラブ
鈴鹿 42 (2022-11) 20 クラブ

〔戦評〕立ち上がり、本田は立木のロングと平松のサイドシュートで2点先取。対する栃の葉クラブは岸のサイドシュートやペナルティシュートで追撃すると、5分過ぎに本田GK橋本の好守から3連続速攻を決められ点差をあけられた。

〔戦評〕立ち上がり、両チームともGKの活躍もあり、互角の展開を見たが、10分過ぎから日体大は速攻を連発して得点を重ね、セットでも下地のテクニクを中心にトヨタ車体のディフェンスをゆさぶり、20分過ぎには16-9とする。しかし、日体大ディフェンスの荒さが目立ち、トヨタが君島のカットインなどで追い上げ、19-14と5点差で前半を終了。

得00403014053	〔業〕谷田田元開	口西山井	岸	滝小中武	〔橋〕染石中四山新
42	(5)	PT	(2)	20	

日体大 41 (2219-114) 21 トヨタ

〔戦評〕立ち上がりは両チームともGKの活躍もあり、互角の展開を見たが、10分過ぎから日体大は速攻を連発して得点を重ね、セットでも下地のテクニクを中心にトヨタ車体のディフェンスをゆさぶり、20分過ぎには16-9とする。しかし、日体大ディフェンスの荒さが目立ち、トヨタが君島のカットインなどで追い上げ、19-14と5点差で前半を終了。

得00551610021	〔車〕宮村吉君福岡河奥赤	久冀	東保	山田	〔本〕林続島田島合田星
41	(2)	PT	(0)	21	

得0031662215935	〔日〕比糸安佐吉高小	下本佐	堤積	地庄藤	〔嘉〕井達藤迫木橋
41	(2)	PT	(0)	21	

から三陽はベテラン関を投入し、5連続得点をあげて一気に逆転、そのまま逃げ切った。

得005028304040	〔大〕嶋木橋田中村原野平	本野	岩中	〔早〕中荒大猪大丸河鳥
27	(3)	PT	(2)	26

得003515640021	〔三〕宇高浜飯大砂山浜安吉近	関	田	〔陽〕橋川島坪川口田藤原藤
27	(3)	PT	(0)	21

得00444154082235	〔大〕渡矢松大武首中山甲首相宮	和	藤田	〔崎〕辺内岡田田藤田本斐田馬下
36	(3)	PT	(2)	24

2回戦

湧永製薬 35 (1718-127) 19 トヨタ

〔戦評〕トヨタが2点先取し、湧永も4点を連取する。そのまま湧永が波に乗るかと思えたが、シュートミスなどがあり、互いに得点、20分で9-7からディフェンスがかみ合い出し、速攻などで9連続得点し前半を終了。

得0064022210022	〔自〕井森井田井江西村本尾元	森	川	〔西〕富香川酒堀中田石松杉
35	(1)	PT	(2)	19

得0041990835131	〔湧〕徐	田	〔永〕卷原村田井沢取塚田原	川
27	(2)	PT	(0)	19

日新が3点リード。後半に入ってもそのままリードを続ける日新を大同は粘り強いディフェンスから追いかけて、20分過ぎから4連取して、逆転。日新も粘ってPTで同点とし、20-20で延長へ。

〔戦評〕立ち上がりから両チーム気合いの入った攻防を展開し、ガツブリ互角にわたり合ったが、大同・高村の退場を境に4連取した。

得009332070300	〔同〕吉	中藤村生	石木藤萬取	〔大〕秋	田内高朝	明植佐阿名
27	(3)	PT	(4)	29		

得003563712200	〔新〕川田山木斐井田本田中村	田	〔日〕谷	宇武西高甲藤堀藤池野木
29	(4)	PT	(0)	20

得004003102512
 大)嘉井達藤迫木橋 堤積 地庄藤
 日)比糸安佐吉高小 下本佐

G K F P (審・後藤 島田)

得005070340060
 本)高橋真福立尾内粟田平山梅
 田)木本砂島木上藤屋口松本基

大崎電気39 [2217|1013] 23 三陽商会

〔戦評〕立ち上がり、三陽・飯島のロングで先行したが、大崎も首藤、宮下を中心にロングとサイドで得点をあげ、15分過ぎには8-4と大崎がリードを奪うが、三陽も大崎のディフェンスの甘さについて浜田の活躍で追いつけたが、要所で大崎GK矢内に阻まれ、その間に大崎が速攻、ミドルなどで着実に得点を重ね、前半は17-13で大崎リードで前半を終了。
 後半も大崎が山本のサイド、PT宮下のロングで差を広げ、三陽のシュートの間、首藤のスカイ大

得003503376020
 陽)川橋川島坪川口田藤原藤
 三)宇高浜飯大砂山浜安吉近 関

G K F P (審・川島 森)

得0013510171074
 崎)辺内岡田田藤田本斐田下住
 大)渡矢松和 大武首中山甲菅宮魚

39 (7) P T

和田のポストと10分過ぎには25-15と10点差をつけた。その後、両チームとも一進一退をくり返し、見応えのあるゲーム展開となったが、差は縮まらず、実力に勝る大崎が、39-23で三陽を降し、準決勝へ進んだ。

準決勝

湧永製菓25 [1114|910] 19 日新製鋼

〔戦評〕立ち上がり8分間一進一退の攻防。8分過ぎ湧永は酒巻の3連続得点をきっかけに6-2とリードする。その後得点のとり合いとなり、14-10と湧永の4点リードで折り返す。
 後半に入り日新は3点差まで追い詰めるも、地方に勝る湧永は厚いディフェンスで日新の必死の追い上げをふり切り、決勝へと駒を進めた。
 湧永は要所でのGK徐の好守から酒巻、河原らが得点をあげ、湧永ベースの試合でゲームを終えた。

得003422104012
 新)日谷川田山木斐井田本田中村
 日)宇武西高甲藤堀藤池野木

G K F P (審・小笠原 浜田)

得0086511000320
 湧)藤卷原村田井川沢取田原
 徐)井河河玉堀新中長荷奥楢

25 (3) P T



日新製鋼もがんばりを見せたが、準決勝で敗れる

大崎電気23 [1211|126] 18 本田技研 鈴鹿

〔戦評〕日本リーグ2位の本田と4位の大崎の戦いは、リーグで2試合とも敗れている大崎の闘志に本田が気運くれたのか、立ち上がりこそ大崎・菅田と本田・内藤の得点で互角であったが、15分間に菅田のポスト、甲斐の速攻、首藤のロング、本田のミスからの速攻などで連続5点をとられ苦しい試合になった。15分過ぎからやっと調子を取り戻した本田は、エース立木を中心に内藤とのコンビで互角に試合を進めたが、立ち上がりの連続5失点の差で前半を終了。

得0015071110201
 本)木本砂木上藤屋口松本村基
 高)橋真立尾内粟田平山福梅

G K F P (審・川島 森)

得000048202430
 崎)辺内岡田田藤田本斐田下住
 大)渡矢松和 大武首中山甲菅宮魚

23 (1) P T

打ちこんでしまう性格です。

好きなことを、好きなだけやっているうちに、ここまで来た。
 面白いなあ、くやしいなあ、うれしいなあと言っているうちに、ここにいた。
 ボールいっこあれば、夢中になれるボクたちは、きっと天下無頼の幸せ者なんだ、と思います。

Tango molten
 HSH3AD タンゴ3号 ¥6,000
 ●天然皮革 ●最高級品・手縫い
 日本リーグ男子試合球
 株式会社 モルテン molten
 東京本社 東京都墨田区横川5丁目5-7 〒130 ☎03-625-7581
 大阪・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・リノ/USA・デュッセルドルフ/W.G.

り戻そうとするのがGKの好守に阻まれペースをつかめず、前半を19-10で終る。

後半に入っても大和のポスト攻撃は止まることなく、その上速攻も出だし、追加点をあげる。日体大は最後まで自分たちのリズムを出すことができなかったが、一生

得002310613310
大永崎来間田見島林玉吉谷田
体松
〔松小市大新人小小児竹桐山〕

G K F P (審・北久保) P T (1) 20
〔見田木川村池本辺瀬田川〕
和増築丸鈴襲上小藤渡木松瀬
大得002214146300023

懸念全員一丸となり頑張っていた姿勢に好感が持たれた。

北国銀行29 (1118-115) 17福岡教員
〔戦評〕日本リーグ1部復帰で勢いに乗る北国が圧倒的な力の差を見せて大勝した。

福岡教員も今村、田中(清)を中心によくパスを回し、チャンスに藪田がシュートを放ったが、北国の高い壁に苦しんだ。一方北国は、韓国からの金、呉のパワープレーを中心に得点を重ねた。

後半メンバーを変えた北国に対し、福岡のコンビプレー、速攻が決まりだし、互角の展開となったが、前半の大差をつめることはできなかった。



今大会北国銀行の健闘が光った

得02361203
岡野村田田中中沢
福上今松藪田田田長

G K F P (審・小宮林) P T (1) 17

〔戸井田 後田野 堀金森 本 国〕
北木岩上 丹松矢 谷 呉
得001237147101

29 (0) P T (1) 17

2 回戦

大崎電気32 (1319-149) 23ジャスコ
〔戦評〕ジャスコはポストシュー

トで先行し、10分過ぎまで5-16と善戦するが、大崎は金を中心として多彩な攻撃で得点を重ね、前半を19-9と10点リードして終る。

後半に入っても大崎は着々と加

ラスト10分、ジャスコも粘りを見せ連続8得点を差を縮めたが及ばず、前半で勝負を決めた大崎の余裕の勝利であった。

得003210645011
ス田林木田石井田出系井田
深々
〔小小佐石稲常川池東寿今山〕

G K F P (審・島崎) P T (3) 23

〔木片田井川原口宮田 井 大〕
崎々々 佐宗森藤前梅江鷲野 金 福 尹
得0013432031006

32 (3) P T (3) 23

前半から一進一退の攻防が続いたが、東女体大は佐藤へのポストプレーからの得点を中心にGK村

山の好守などでチームを盛り上げた。一方ビクターは、東女体大のミスから着実に速攻で得点を重ね、一時東女体大にリードを許したが枝川の3連続得点で逆転し、10-9で折り返した。

後半に入ると東女体大の動きが少し鈍り、さすが実業団のチームだけあるビクターは、主導権をしっかりと握った。残り8分、3点差でビクターに退場者が出て、東女体大の追撃が期待されたが、逆にビクターが得点を重ね、善戦むなしく学生チームはすべて姿を消す結果となった。

得0022111990003
体田山藤西谷塚野 野口野島
〔藤村佐川 伝藤竹 吉井日田〕

G K F P (審・佐藤) P T (7) 18

〔口田藤田川條田岡藤村内松 日〕
小山武長枝下太永工中山小
得001761500221000

23 (3) P T (7) 18

〔戦評〕立ち上がりシャトレゼは、サイドシュート、ペナルティは、10分過ぎから連続速攻でエンジンがかかり、一気に逆転し、12-10の2点リードで前半を終了した。

後半、一進一退の白熱したゲームとなった。一時は大和が5点を

リードしてそのまま終るかと思われたが、シャトレゼはラスト3分に1点差まで追い上げ、益々盛り上がった。最後は、大和がポストシュートを決めて終了の笛が鳴った。

得0020150012229
〔山藤松崎道沢沼林寺方保 李 野 小 野 小 生 小〕

G K F P (審・岡本) P T (5) 22

〔見田木川村池本辺瀬田川〕
和増築丸鈴襲上小藤渡木松瀬
大得0054435300010

25 (3) P T (5) 22

〔戦評〕立ち上がり立石が3-0とリードを奪うが、北国も立石・野嶋をマンツーマンで攻撃を分断し、攻めても金のパワフルなプレーで得点をあげ、10分過ぎには7-5と逆転。その後立石も金をマンツーマンで守るが、5対5の攻防を北国は呉のロングを中心に林のサイド、上田の速攻などで着実に得点をあげ、要所では金がカットイン、PTと活躍し、比嘉を中心に粘る立石に17-10と7点差をつけて前半を終了。

後半も北国がパスカットから林の速攻で先行、立石もGK川島の好守から得点をあげるが、北国は金のマンツーマンで攻撃の中心となった呉が大活躍、ロング、カッ

第32回(女子25回)全日本学生選手権大会

日体大が男女アベック優勝を飾る

男子は10年ぶり9回目、女子は4年ぶり15回目

男子

1回戦

東和 大29 (5 12 12) 27 函館大
 東海 大20 (7 13 9) 18 愛媛大

法政 大24 (12 12 12) 22 愛知学院大

名城 大25 (11 14 13) 21 中央大

中京 大31 (12 19 12) 27 東北学院大

慶応 大25 (11 14 9) 21 福岡教育大

大阪体育大 42 (19 23 9) 15 新潟大

国士館大 37 (20 17 10) 19 挑山学院大

2回戦

日本体育大 37 (20 17 11) 22 東和

東海 大26 (12 14 16) 22 同志社大

早稲田大 37 (16 21 14) 22 法政大

名城 大29 (7 16 6) 26 大阪経済大

中京 大29 (11 18 11) 25 筑波大

中部 大36 (19 17 15) 27 慶応大

日本 大24 (14 10 10) 20 大阪体育大

国士館大 34 (19 15 12) 26 福岡大

日体大 31 (15 16 9) 13 東海大

〔戦評〕前半立ち上がり、日体大は名城大も互角に展開したが、後半に入り、立ち上がり10分間は名城大も互角に展開したが、後半を終る。

〔東海大〕茅井 関 佐 鈴 白 萩 野 村 磯 小 志 (1) 13

〔大阪大〕大原 上 口 野 木 川 原 崎 上 辺 林 田 (1) 13

〔日本大〕嘉井 達 藤 迫 木 橋 堤 積 地 庄 藤 (6) 31

が続けてPTを決めて優位に立つ。東海大は日体大ディフェンスを攻めめぐみ、中盤全く得点が伸びず前半で16-5と大差がついて勝負が決まった。

後半に入っても日体大が着々と加点、リードを大きく広げて快勝した。

早稲田大 36 (18 11 10) 17 名城大

〔戦評〕早大が立ち上がりすぐに先制、着々と得点を加えて10分には7-2とリードを奪う。名城大も散発的に反撃を見せたが、得点力に差があり、18-7という大差で前半を折り返す。

〔東海大〕茅井 関 佐 鈴 白 萩 野 村 磯 小 志 (2) 20

〔大阪大〕大原 上 口 野 木 川 原 崎 上 辺 林 田 (2) 20

〔日本大〕嶋木 橋 田 中 村 原 野 平 本 野 岩 中 (3) 36

〔名城大〕持 謝 松 北 井 藤 城 村 原 山 原 小 山 横 遠 金 二 上 本 日 (3) 17

〔早大〕中 荒 大 猪 大 大 孤 河 鳥 原 岩 中 (3) 36

盤から再び早大がじりじりと点差を広げて名城を大差で圧倒した。

東海大 20 (9 11 9) 19 名城大

〔戦評〕前半立ち上がり、東海大・佐野が10分間で5点をあげる活躍で6-3とリードを奪う。しかし、名城大も金城のシュートなどでじりじりと追い上げ、11-10と東海大の1点リードで折り返す。後半開始早々名城大が同点とし以後一進一退の展開となる。全く互角の展開から残り2分から東海大が連続得点をあげ、粘る名城大を辛くもふり切った。

得001013044024

〔名城大〕持 謝 松 北 井 藤 城 村 原 山 原 小 山 横 遠 金 二 上 本 日 (0) 19

〔東海大〕茅井 関 佐 鈴 白 萩 野 村 磯 小 志 (2) 20

〔大阪大〕大原 上 口 野 木 川 原 崎 上 辺 林 田 (2) 20

〔日本大〕嶋木 橋 田 中 村 原 野 平 本 野 岩 中 (3) 36

〔名城大〕持 謝 松 北 井 藤 城 村 原 山 原 小 山 横 遠 金 二 上 本 日 (3) 17

〔早大〕中 荒 大 猪 大 大 孤 河 鳥 原 岩 中 (3) 36

〔東海大〕茅井 関 佐 鈴 白 萩 野 村 磯 小 志 (2) 20

〔大阪大〕大原 上 口 野 木 川 原 崎 上 辺 林 田 (2) 20

〔日本大〕嶋木 橋 田 中 村 原 野 平 本 野 岩 中 (3) 36

〔名城大〕持 謝 松 北 井 藤 城 村 原 山 原 小 山 横 遠 金 二 上 本 日 (3) 17

得002029403140

〔早大〕須 荒 大 猪 大 大 孤 河 鳥 原 岩 中 (2) 25

〔東海大〕茅井 達 藤 迫 木 橋 堤 積 地 庄 藤 田 (2) 26

〔日本大〕比 糸 安 佐 吉 高 小 下 本 佐 吉 (2) 26

〔名城大〕早 稲 田 大 35 (17 18 11) 21 東海大

〔戦評〕前半立ち上がり東海大が健闘、20分まで8-8と互角の展開、ところが、この残りの10分で早大が立て続けに得点、一気に18-10と大差をつけた。

〔東海大〕茅井 関 佐 鈴 白 萩 野 村 磯 小 志 (5) 21

〔大阪大〕大原 上 口 野 木 川 原 崎 上 辺 林 田 (5) 21

〔日本大〕嶋木 橋 田 中 村 原 野 平 本 野 岩 中 (4) 35

〔名城大〕持 謝 松 北 井 藤 城 村 原 山 原 小 山 横 遠 金 二 上 本 日 (4) 35

〔早大〕中 荒 大 猪 大 大 孤 河 鳥 原 岩 中 (4) 35

〔東海大〕茅井 関 佐 鈴 白 萩 野 村 磯 小 志 (5) 21

〔大阪大〕大原 上 口 野 木 川 原 崎 上 辺 林 田 (5) 21

〔日本大〕嶋木 橋 田 中 村 原 野 平 本 野 岩 中 (4) 35

あけてリードを奪い、14-7で前半を終る。

後半に入り、日体大は全員がムラなく得点をあげて大量得点をあげ、大きくリードを広げて圧勝した。

得点
0000133314001
持謝 松北藤城村原山原野
【戦評】 小山遠金二上本日藤

G K F P (審・小笠原)

PT (0)

得点
004224165360
日比糸安佐吉高小 積 地庄藤川
【戦評】 嘉井達藤迫木橋

G K F P (審・浜田)

PT (1)

【順位】 ①日本体育大②早稲田大③東海大④名城大

準決勝リーグゾーン

中部大 22 (1012-9) 18 中京大

【戦評】 前半立ち上がり、両チーム共コースコの展開。20分を過ぎて中部大がリード、12-9で前半を折り返す。

得点
0002042630001
大田安良本口本谷部藤井田山
【戦評】 前立ち上がり7分間中

G K F P (審・谷友)

PT (2)

得点
0053200003540
大原田村前根浜儀田嶺田
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

後半も一進一退の互角の展開を見せ、前半のリードを保った中部大が逃げ切った。

日 大 26 (1214-8) 14 国士館大

【戦評】 前半15分までは8-7とほぼ互角の展開を見たが、それから15分間で国士館大は僅か1点という貧攻。日大が14-8と6点をリードして前半を終了。

G K F P (審・照井)

PT (1)

得点
0034032100001
大田田内野尾里野吉林尾中
【戦評】 前半互角の立ち上がりだったが、国士館大は中盤得点を伸ばすことができず10-6と中部大が4点をリードして折り返した。

G K F P (審・小笠原)

PT (3)

得点
0060507143000
大堀鬼雨田小杉渡山丹西加井
【戦評】 前半立ち上がり、両チーム共コースコの展開。20分を過ぎて中部大がリード、12-9で前半を折り返す。

日 大 32 (1517-137) 20 中京大

【戦評】 前半立ち上がり、両チーム共コースコの展開。20分を過ぎて中部大がリード、12-9で前半を折り返す。

得点
0010135420004
大田安良本口本谷部藤井田山
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

G K F P (審・池田)

PT (0)

得点
00715005941000
大江頭宮子原谷辺田羽岡藤手
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

京大は無得点。この間に日大は7点をあげて7-0と一方的にリード。その後中京大も反撃を見せるが反則が多く、結局17-7と大差で前半を終了。

後半は両チームほぼ互角の点のとり合いとなったが、日大が終盤立て続けに得点、前半の大量リードを守って逃げ切った。

得点
0064202100000
大田田内野尾里野吉林尾中
【戦評】 前半互角の立ち上がりだったが、国士館大は中盤得点を伸ばすことができず10-6と中部大が4点をリードして折り返した。

G K F P (審・清本)

PT (2)

得点
00677456000000
大田田内野尾里野吉林尾中
【戦評】 前半互角の立ち上がりだったが、国士館大は中盤得点を伸ばすことができず10-6と中部大が4点をリードして折り返した。

G K F P (審・谷友)

PT (5)

得点
002000032930
大原田村前根浜儀田嶺田
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

日 大 19 (910-118) 19 中部大

【戦評】 前半、中部大が先制。中盤一進一退の展開だったが、中部大に反則が目立ち、PT4本を決めた日大が10-8と2点をリードして前半を終る。

得点
002000032930
大原田村前根浜儀田嶺田
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

G K F P (審・浅井)

PT (0)

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

したが、国士館大が中盤再びリード、終盤ダメ押し得点をあげて逃げ切った。

得点
00460001730001
大田安尾本口本谷部藤井田山
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

得点
002000032930
大原田村前根浜儀田嶺田
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

G K F P (審・山本)

PT (3)

得点
001011151102
大原田村前根浜儀田嶺田
【戦評】 前半立ち上がり、国士館大が先制、10分過ぎには4-1とリードしたが、中京大も徐々に追い上げ、1点差で前半を折り返す。

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

【順位】 ①日本大②中部大③国士館大④中京大

【戦評】 前半立ち上がりから早大の孤原、鳥平らが快調にシュートを決め大きくリードを奪う。一方の中部大は、早大ディフェンスを攻めあぐみ、得点が伸びない。17-6と早大が大きく差をつけて前半を折り返す。

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

得点
0060344809020
大早荒大猪大孤河鳥原 岩中
【戦評】 前半立ち上がり、日大が先制。日大が先行して進んだが、10分には日体大が4-3

着々と加点、リードを広げる。終盤、大体大も懸命の反撃を見せたが、すでに点差は大きく、及ばなかった。

得000220318020
 大本原原田島見沢内嘉着永並
 〔大松梅藤飯五鷲成竹比富増柿〕

G K F P (審・照井)

〔大〕永崎来間島林玉吉藤林谷田
 〔日松〕小市小小兒竹後若桐山
 得00722121232223

〔武庫川〕大 〔911-710〕 17日女体大

〔戦評〕前半、武庫川・西村、塩崎、日女体大・執印らが激しく点を取り合い互角の展開で、終了間際に西の得点で武庫川が1点をリードして前半を終える。

後半開始早々、日女体大がすぐに追いついたが、その後一進一退の展開から中盤武庫川が抜け出し日女体大も終盤の追い上げがかみ合わず、武庫川が3点差で逃げ切

得000031010066
 〔日女〕郷井田尾島原谷子村原藤印
 〔西字〕増板北竹染真三柳佐執

G K F P (審・岡本)

〔多〕崎村原井田 崎浪村
 〔喜〕塩西水篠永和 橋高西
 得006602204000

た。

日体大28 [1315-106] 16日女体大

〔戦評〕前半、日女体大は日体大のディフェンスを攻めめぐみ、得点が伸びない。一方、日体大は全員がムラなく得点、15-6と前半で大差をつけた。

後半日体大のペースは変わらないが、日女体大も執印を中心に反撃、ほぼ互角の展開を見せた。

得000021030118
 〔日女〕郷井田尾島原谷子村原藤印
 〔西字〕増板北竹染真三柳佐執

G K F P (審・鯛沼)

〔大〕永崎来間島林玉吉藤林谷田
 〔日松〕小市大小小兒竹後若桐山
 得002453070340

〔武庫川〕大 〔1016-134〕 17日女体大

〔戦評〕前半、互いに固い立ち上がりだったが、武庫川がリズムに乗ると着々と得点を伸ばし、大体

得0001000021724
 〔大本〕原原田島見沢内嘉着永
 〔大松梅藤飯五鷲田成竹比富増〕

G K F P (審・小笠原)

〔多〕崎村原秋井浦田 浪村
 〔喜〕塩西篠千永松和 高西
 得002430601504

大の反則もあってPTで5得点をあげるなど16-4と前半で大量リードを奪った。

後半は、立ち上がり互角の展開だったが、中盤から大体大が追撃じりじりと点差を縮めたが、前半の点差が大きく及ばなかった。

日体大22 [148-8] 16武庫川女大

〔戦評〕前半、武庫川は立ち上がり日体大のディフェンスを攻めめぐみ、初得点は12分過ぎ。この間に日体大は5点をあげ5-1とリード。しかし、ここから武庫川が西村のシュートなどで反撃、逆に日体大は得点を伸ばすことができず、8-8の同点で前半を終了。

後半、武庫川がPTで先制したものの、中盤から日体大の攻撃が上回り、着々と点差を広げて日体大が押し切った。

得005500000114
 〔多〕崎村原井浦田 浪村
 〔喜〕塩西木藤永松和 高西

〔武庫川〕大 〔1510-814〕 22日女体大

〔戦評〕前半、大体大が先制。しかし、中盤から日女体大が着々と得点を伸ばし、14-10と4点をリ

得0023431302213
 〔日松〕小市大小小兒竹後若桐山
 〔大本〕永崎来間島林玉吉藤林谷田

G K F P (審・鯛沼)

〔多〕崎村原秋井浦田 浪村
 〔喜〕塩西木藤千永松和 高西
 得007221030001

ードして前半を終了。

後半、立ち上がりはほぼ互角の展開を見せたが、10分過ぎから大体大のペースとなり、20分には20-20の同点に追いつき、終盤一気に加点して逆転勝ちを収めた。

日体大23 [1112-911] 20東女体大

〔戦評〕前半、東女体大・田鹿の3連取でスタート。この3点差を中盤から日体大がじりじりと追い上げ、15分に6-5と逆転、結局12-11と1点をリードして前半を終了。

後半、東女体大は立ち上がり10分間得点をあげられず、日体大がリードを4点にまで広げる。その後、東女体大もリズムを取り戻し追い上げたが、僅かに及ばず、日体大が4年ぶり15回目の優勝を飾った。

得001300701035
 〔東女〕田山藤谷塚野鹿野口島野橋
 〔東時〕村佐佐藤竹田吉井田日本

〔武庫川〕大 〔9-8〕 14筑波大

〔戦評〕前半はほぼ互角、一進一退の展開で、両チームともにPTの

得00202004211004
 〔大〕山下塚山島鳥部山 川沢内
 〔筑波〕大磯小野土海加中柳

G K F P (審・大河原)

〔多〕崎村原秋井浦田 浪村
 〔喜〕塩西木藤千永松和 高西
 得007221030001

決勝

日体大23 [1112-911] 20東女体大

〔戦評〕前半、東女体大・田鹿の3連取でスタート。この3点差を中盤から日体大がじりじりと追い上げ、15分に6-5と逆転、結局12-11と1点をリードして前半を終了。

後半、東女体大は立ち上がり10分間得点をあげられず、日体大がリードを4点にまで広げる。その後、東女体大もリズムを取り戻し追い上げたが、僅かに及ばず、日体大が4年ぶり15回目の優勝を飾った。

得001300701035
 〔東女〕田山藤谷塚野鹿野口島野橋
 〔東時〕村佐佐藤竹田吉井田日本

〔日松〕小市大小小兒竹後若桐山
 〔大本〕永崎来間島松玉吉藤谷田
 得00544330442011

第7回女子ジュニア世界選手権大会報告

ソ連が韓国を降し優勝
—日本も善戦、10位となる—

9月22日からアフリカのナイジェリアで行なわれた第7回女子ジュニア世界選手権大会は、日本をはじめ15カ国が参加して熱戦を展開。ソ連が優勝を飾った。大会前にヨーロッパで合宿して大会に臨んだ日本チームは、強豪各国に善戦、10位という成績を収めた。

戦績

▼予選リーグ	○Aグループ	日本	23	17	西ドイツ	○Dグループ	韓国	37	25	オーストリア
ソ連	ソ連	日本	31	21	日本	スペイン	韓国	37	16	アルジェリア
ソ連	ソ連	日本	38	20	西ドイツ	スペイン	中国	28	12	オーストリア
〔順位〕①ソ連②日本③西ドイツ	〔順位〕①ソ連②日本③西ドイツ	〔順位〕①ユーゴスラビア②スペイン③ナイジェリア④スイス	〔順位〕①韓国②中国③アルジェリア④オーストリア	〔順位〕①ソ連②韓国③ブルガリア④ユーゴスラビア⑤スウェーデン⑥中国⑦デンマーク⑧スペイン⑨ナイジェリア⑩日本⑪西ドイツ⑫アルジェリア⑬スイス⑭オーストリア⑮トルコ	〔順位〕①ソ連②韓国③ブルガリア④ユーゴスラビア⑤スウェーデン⑥中国⑦デンマーク⑧スペイン⑨ナイジェリア⑩日本⑪西ドイツ⑫アルジェリア⑬スイス⑭オーストリア⑮トルコ	〔順位〕①ソ連②韓国③ブルガリア④ユーゴスラビア⑤スウェーデン⑥中国⑦デンマーク⑧スペイン⑨ナイジェリア⑩日本⑪西ドイツ⑫アルジェリア⑬スイス⑭オーストリア⑮トルコ	〔順位〕①ソ連②韓国③ブルガリア④ユーゴスラビア⑤スウェーデン⑥中国⑦デンマーク⑧スペイン⑨ナイジェリア⑩日本⑪西ドイツ⑫アルジェリア⑬スイス⑭オーストリア⑮トルコ	〔順位〕①ソ連②韓国③ブルガリア④ユーゴスラビア⑤スウェーデン⑥中国⑦デンマーク⑧スペイン⑨ナイジェリア⑩日本⑪西ドイツ⑫アルジェリア⑬スイス⑭オーストリア⑮トルコ	〔順位〕①ソ連②韓国③ブルガリア④ユーゴスラビア⑤スウェーデン⑥中国⑦デンマーク⑧スペイン⑨ナイジェリア⑩日本⑪西ドイツ⑫アルジェリア⑬スイス⑭オーストリア⑮トルコ	〔順位〕①ソ連②韓国③ブルガリア④ユーゴスラビア⑤スウェーデン⑥中国⑦デンマーク⑧スペイン⑨ナイジェリア⑩日本⑪西ドイツ⑫アルジェリア⑬スイス⑭オーストリア⑮トルコ

戦評

〔9月22日〕
日本23―17西ドイツ
日本の完勝であった。このゲームは世界選手権のオープニングゲームといふこともあり、両チーム得点が入らず、15分経過して3―3といった重苦しい展開であった。しかしその後、日本チームは速攻が決まりだし、前半9―6で終えた。後半開始早々4連続得点をあげ、日本有利な展開となった。その後、着実に得点を重ね、一時は9点差まで広げ、エントリーマンパー全員をコートに送り出す余裕のあるゲーム運びができた。ユーゴでの一週間の遠征によって身長のあるプレーヤー、特にポストプレーヤーに対する守り方と速攻の有効性を認識したこと並びにレフェリーのジャッジに対する慣れ（日本のレフェリーのそれとかなり異なる、特に退場、ペナルティースローに対する基準がかなり異なる）が勝因になったと思われる。

〔9月23日〕
日本21―31ソ連
ゲーム開始早々、5連続得点を許し、苦しいスタートとなった。今回のソ連チームは身長が高く（185cmクラスが4人はいいた）、かつ技術的にもシュート力がある強力なチームで、この高さに戸惑った様子であった。しかし、日本チ

ームも速攻やカット員による割り込みでPTを得、竹吉が確実に得点し、前半9―16で終えた。後半は終始得点を取り合い、白熱したゲームになった。特に、竹吉、日比野のステップシュートが決まり、場内を沸かせる展開になった。しかし、相手の攻撃も緩まず、結局12―15、トータル21―31で終わった。後半、ディフェンスが前半に比べ、ピストンを素早く行ない、相手の攻撃を封じる場面もみられ、準決勝リーグにつながる収獲を得ることができた。日本チームの善戦であった。

〔9月26日〕
日本20―36スウェーデン
日本チームの完敗であった。前半、10分まで点を取り合い、4―4と競ったが、その後、全く攻守に生彩がみられず、10―17と一方的なスコアになってしまった。後半も前半同様の展開となり、日本チームの良いところが全くみられないゲームであった。敗因としては、相手の速攻に対する帰陣が遅かったこと、防御でのとなりプレーヤーとのコンビネーションプレーが崩れ、集中したディフェンスができなかったこと、セットの攻撃ではゴールへの動きが乏しく相手のディフェンスを崩すことができなかつたことなどが挙げられよう。

外国チームと対戦するときの日本チームの宿命であるが、プレ

1ヤリの運動量が乏しくなったときにはどうにもならないことが改めて再認識された。戦術的な問題はともかく、いつもゴールを狙う積極性、気力の充実が日本チームの重要な課題になろう。

9月27日 日本16-23ブルガリア

前日のスウェーデン戦同様、ゲーム開始早々連続得点を許し、10分間で4-0とリードされた。このまま、ずるずると一方的なゲーム展開になるのではないかと心配されたが、今日はディフェンスがピストンとカバリングを徹底して行なったために、相手に容易に得点を許さず、内容のある展開になった。しかし、攻撃はスウェーデン戦同様攻めあぐみ、前日より突破の意欲がみられたものの、前半6点でとどまった。しかし、後半は攻撃がふんばりを見せ、45度のサイドへの突破やサイドシュートなどで得点を挙げ、さらに、速攻も決まりだし、後半は10-9で勝ち越すことができた。終始、粘りのあるディフェンスができたことは次の対戦チームであるデンマーク戦に希望を与えるものであった。

9月29日 日本20-22デンマーク

この一戦に勝てば、7、8位決定戦進出ということもあり、このデンマーク戦に日本チームのすべてをぶつけようとする意気込みが

試合前からみなぎり、気力充実してゲームに臨んだ。これまでの試合同様、高いディフェンス網にこずりながらも、谷本、日比野、竹吉らの活躍で前半8-11で終った。後半、谷本のステップシュートや速攻が決まり、16分には15-15と振り出しに戻し、その後得点の取り合いで白熱したゲームとなった。二度勝ち越す場面があったが、23分経過後、相手に3連続得点を許し、追撃空しく2点差で敗れてしまった。特に、ディフェンス陣の頑張りがめだち、後一步のところまで迫っただけに悔しい敗戦であった。

しかし、選手たちはゲームの中で一つのプレーの厳しさやミスをしていないことの重要性が今まで以上に理解できる意味ある体験をしたと思われる。

9月30日 日本22-34ナイジェリア

日本チームは9、10位をかけての最終戦であった。前半15分までは得点を取り合い、5-5と白熱したゲーム展開であった。その後、両チームミスが目立ち始め、荒っぽいゲーム展開になり、体格に劣る日本チームにとっては苦しい状況に追い込まれた。それでも、柳内などの活躍で前半11-14で終えた。後半、ナイジェリアチームの力強い攻撃にディフェンスがついていけなくなり、一方的な展開になってしまった。日本チームは外

国チームと対戦する場合、体格的なハンディを背負って戦わなければならないが、これを少しでも補うためには、気力ある攻防を行なうことがその前提になる。今日のゲームは、特に後半に選手たちが集中力を欠いた空白の時間を招いたのは残念であった。

団長 鈴木 義男

日本からはるかに遠く未知に近い国であるナイジェリアで第7回世界女子ジュニア選手権大会が行なわれた。もちろん、ハンドボールのワールドチャンピオンシップがアフリカ大陸で開催されるのは初めてでもある。私は今度の日本選手団に同行の連絡を受けたのが出発間近かの2週間もなく、予防注射やら事前準備に手間どり、何の予備知識も持たずに東京に集合し出発することになった。選手団は国内スケジュールの都合で事前合宿ができなかったため、ヨーロッパで試合も兼ねて調整合宿を行なうためユーゴスラビアに飛んだ。ザグレブ空港から120kmぐらい離れたのかな田舎町コプリビニツァに投宿して近くの町のクラブチームと3試合を行ない、2勝1敗の成績をあげヨーロッパチームとの対応にも馴れて最高に近いコンディションで本大会に乗り込む準備ができた。この1週間は適度の期間であり、落ち着いた雰

囲気の中で集中練習ができたことは、現地関係者の日本チームに対する配慮の賜物と思う。10月20日ザグレブ空港を正午に飛び立ってからが強行スケジュールで、ロンドンまで引き返して空港で7時間待機、夜9時半出発して明くる朝7時半ナイジェリア首都ラゴスに着いたが、国内線で5時間待たされ、やっと内陸部のジョス空港着。それからバスでサバンナ地帯を2時間近く走り、会場地パウチ市のホテル着が夕方になり、全員クタクタの状態。しかも明日の第1戦が10時から照準をしばっている西独戦であり、選手団はコンディション問題に戦々恐々の有様。

会場地パウチ市は海拔800mの高地で広大な草原地帯で気候も良く、ホテルも国際級であった。大会運営は軍隊の力を利用し、国をあげての精一杯の努力が見られ、各国への配慮も行き届いていた。しかし、施設面ではトラブルが多く、停電して試合が中断したりホテルのエレベーター故障で中にとじ込められたり、また体育館に得点掲示板もなく、急拠黒板を運び込んでチョークで得点を書き入れるなど前代未聞の大会である。時間の遅れなど日常茶飯事で、待つことに苦痛を感じないこちらの人々の生活に順応しなければいけない所である。

ホテルから体育館までバスの中から町をながめる程度で町を散歩

召しませ自然。

シャトレゼのお菓子は山梨育ち。日本一の果実郷と極上の酪農地帯です。澄んだ空気と豊かな自然を満喫して。そして、日本中をおいしい笑顔でみたそうとシャトレゼのフレッシュパワー、インドホル部ともども、21世紀に向けて、さらに大きく飛躍しようとしています。



Châtraisé

株式会社シャトレゼ

山梨県東八代郡中道町下曾根3440-1 〒400-15
電話(0552)66-5151(大代) FAX(0552)66-5156

することも治安問題でむずかしく、飲食物や蚊などからの病気の不安がつきまとい、また試合中の選手ケガ続発など、今回ほどチームドクター不在の遠征がいかに苦しいか、ましてドクター不帯同は日本チームだけであるだけに、ドクター軽視はあまりにも問題が大ききことを痛感する。

ジュニア大会は、今後の各国の実力動向が把握できるだけに楽しい興味ある大会である。さすがに各国ともゲームの内容はきびしく、威信をかけての意気込みには見応えがあった。試合内容や技術問題は、コーチングスタッフの報告にゆずるとして、選手たち全員アクシデントの多い中で良く頑張り、予選グループを2位で突破、トータル10位を獲得できたことは努力の成果ではないかと思う。

この遠征に際して日本協会をはじめ関係チームの方々及び現地の日本大使館、商社等いろいろご指導いただきまして無事全員帰国できたことを厚くお礼申し上げます。

監督 山崎 武

第7回女子ジュニア世界選手権大会が去る9月22日から10日間、アフリカ・ナイジェリアのパウチ州で開催された。それに先立ち、ユーゴスラビアで5日間の合宿を行い、この遠征を振り返っての所感を記

してみたい。

日本チームは、過去3度大会に参加している。私は今回を含め3度この大会に参加する幸運に恵まれた。

参加15カ国(オランダ棄権)によって競われた覇権争いも、ソ連の圧倒的な勝利で幕を閉じた。日本もまた、予戦リーグを突破し、7位目標に準決勝リーグに進むも、世界の壁は厚く10位に甘んじた。国際試合経験の少ない日本ジュニアチームにとって、この6試合は今後の選手たち、スタッフにとって大きな収穫と教訓を得た。

少なすぎる国際試合

プログラムに記載された各国ジュニアの公式国際試合数は、中国14試合、デンマーク13・5試合、西ドイツ18試合、スペイン15試合、他国はもともと多いと予想されるが、いずれも日本の2・4回を大きく上回っている。ユーゴでの3試合の練習マッチが今回の日本ジュニアチームにとって初の欧州人との闘いであり、もし、この合宿での情報と経験がなければ、10位はおろか予選リーグ突破も困難であったと推察される。

特に各国とも、ジュニアの域を出た選手(ナショナル)が必ず1・2人おり、彼女たちの試合数は平均30回である。

中国のShi Weiにいたってはさらに51試合消化している。地域の

ハンディは致し方ないにせよ、せめてもう少し国際試合を経験できないだろうか。中国にいたっては、国のスポーツ方針が親善から勝利へと変ったにせよ、今回もまた、ジュニア9人が直接アフリカからルーマニアに入りナショナルと1カ月の合宿をこなすと聞くにつけ、その実践力、行動力には驚かざるを得ない。

速攻中心の攻撃へ

戦術面で感じたことは、各国とも(ユーゴを除く)速攻を武器として闘っていたことである。

優勝したソ連、2位韓国は、予選、準決勝リーグ共に30を越える得点力を有した。韓国にいたっては決勝戦を除いて全試合35得点をあげ、その大半が速攻によるものであったことはいままでもない。積極的なディフェンスシステムからミス誘い速攻へつなげる、最も効率のよい攻撃パターン「速攻」が改めて見直された大会でもあった。また、ソ連、韓国、ブルガリア、デンマーク、中国が高い個人能力を生かし、一瞬のディフェンスのすきをついてのシュート、フェイントからのカットイン攻撃は、セットオフエンスでの「速い攻め」であり、得点への貪欲さを感じた。

今後、体格的に不利な日本チームは、時間経過に伴う体力消耗と相まり、ますます苦戦をしいられるであろう。

よく競技した日本チームと今後

ヒト、カネ、モノがない日本のアマチュアスポーツ界にとって今後世界に立ち向かっていくには、どうすればよいのかという点は、ハンドボール界に限らず他の競技においてもよく論議される所である。ただ一つ言えることは現場の力だけではどうにもならないということである。

今回は選ばれた16名の選手たち

は本当によく闘った。地元観客、新聞社の熱狂的な応援のもと、ソ連、ブルガリア、デンマーク戦等、試合に敗れはしたものの、攻守の展開力、集中力を含めた心の勝負では一歩もひけを取らず、むしろ上回っていた。選手一人一人が2年間一貫して行なってきた戦術構想を良く理解し、自分の役割を確実に消化してくれました。竹吉、谷本のクイック、ブラインドシュートは確実なポイントをあげ、また、日比野のずらしからのシュートは常にキーパーの逆について決まった。

生方、西村、上田のディフェンス力は充分外人選手に通用することも確認できた。

願はくば、今後体格的の向上は時を待つとしても、前述した国際公式試合をジュニア時代から数多く経験させること。ジュニア・ナショナルを兼ねる選手が必要である

ねばりは頑張り 気力は体力

医薬品



キョレオピン

医薬品



レオピンファイン

効能・効果

- 滋養強壮 ●虚弱体質
- 肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害
- 発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給



湧永製薬株式会社

- 札幌011(747)2166 ●東京03(293)3351 ●名古屋052(971)5901
- 大阪05(458)8901 ●広島082(264)4116 ●福岡092(481)7382

こと(将来チームの要として)。そして何よりも日本ハンドボールの技術体系の確立こそが大切であると痛感する。

ナイジェリアという国

赤道直上北緯5度に位置し、日本の2・5倍の国土、人口1億1千万、GNP2000・3000ドル石油、綿花、落花生を産出し、アフリカ黒人社会で一番豊かな国といわれる軍事制権国家ナイジェリア。

裸足の物売りの横をベンツが走り抜ける。予想を越える自然の大きさ、得点板もない試合会場。会場をスプレーで追い払われる一般人。飛行機が飛ばず引き返したオランダチーム。軍用機の下で12時間待った韓国チーム。何らすべて問題なしと平然としている組織委員会。この国では「待つ」という言葉はないらしい。

そんな国での世界大会。9月12日から約3週間の遠征中において2度と訪れることのないであろう国アフリカを認識したのは3000kmのサハラ砂漠を横断している時であった。

コーチ 土井秀和

この大会に参加するに当たって私には二つの目的があった。一つは、我々スタッフはこのジュニアチームを単なる選抜チームではなく、まとまった一つのチームに育

てようと、攻撃、防衛の戦術構想を選手たちに提示し、構想実現のために2年間の活動を行なってきた。この活動の成果が世界の檜舞台でどのように発揮されるものかを確かめたいという点であった。二つには、女子ハンドボール界の世界の動向や発展方向を探りたいという点であった。

ムは攻撃で展開のきつかけとなる基本的な動きを2、3種類持っており、それに基づいて各個人の能力を生かした個人戦術、グループ戦術を利用していた。この点では、我々もジュニアチームに同様の指導をしてきたので、我々の採った考え方に誤りはなかったと確信している。しかし、その構想を実現するに足る個人の能力をいま一つ高めることができなかった点は、今までの指導に対する反省としてあげられよう。

大会を終えて、思い浮かぶ感想を述べてみたい。我々ジュニアチームは10位という成績に終わったが、今大会に参加したチームの実力はだいたい4グループに分けることができた。まずは、優勝を争ったソ連、韓国チーム、この両チームは参加チームの中で図抜けていた。次に、ブルガリア、ユーゴ、スウェーデン、中国チームで、技術的にも戦術的にもしっかりとハンドボールを行ない、チームカラーを持っていった。デンマーク、スペイン、ナイジェリア、日本チームは同じようなレベルであった。最後に、西ドイツ、アルジェリア、スイス、オーストリア、トルコチームは、技術、戦術的にも少し劣る印象を持った。

現在の日本チームの強化の方策から推察して、5、6位あたりを狙えるチームづくりが限界であろうと思えるが、この目標を突破するのは必ずしも無理な相談ではないという感想を持った。日本チームの体格的なハンディは当然のことながらいつも重くのしかかるが、戦術構想をよく理解してスピードイナ動きをベースに個人の能力を一層高めることができるならば、課題は達成できるだろう。決して日本チームの上位進出は夢ではない。しかし、この夢を実現するためには、今まで以上に強化合宿をこなし、選手に負荷をかける必要があるだろう。さらに、外国遠

征等による国際経験を一層積みこむとその前提にもなるだろう。協会の積極的な支援を望むものである。

最後に、プレーに対する基準の違い、レフエリングについて取り上げてみたい。この大会に参加して、レフエリーのプレーに対する判定基準が随分と日本と異なっているという印象を持った。特に、ペナルティースロー、チャージング、オーバーステップ、退場などの基準である。もちろん、これらのプレーに対する判定のベースはルールブックであり、これらの解釈は異なるものではないだろう。日本には日本の考え方や主張があるだろう。しかし、外国に行つてプレーの判定に選手が戸惑うようでは、試合でハンディを背負つて戦うようなものである。少なくとも、普段の練習の中にこれらの判定の基準をベースにしたトレーニングが行なわれなければならないことは、試合で勝つことも難しくなる。試合は練習で身につけたプレーの表現であるからである。ことわっておくが、これらのプレーに対する判定の基準が世界選手権の時だけならばこのようにも述べないが、この大会前にユーゴで行なつた試合でも同様の経験をした。これらの事実から推察して、ヨーロッパでは共通の認識があるのではないかと、印象を持った。

新しい時代を作ってゆくのは、
新しいひらめき。
そして、ひらめきを実現してくれる
素材が求められます。
常に新しい技術で新しい夢をかなえる
素材をお届けしてきた日新製鋼。
これからも時代に応える
新しい素材をみつめてゆきます。



明日の素材をみつめる
日新製鋼
東京都千代田区九の内3-4-1
(新国際ビル) ☎03-216-5311 〒100

冒頭基調講演

エリック・エリアス(スウェーデン)
I H F / P R C 委員長

第19回レフェリー部門シンポジウムに世界各国の審判部長ならびに、そのエキスパートの参集を見てPRCとして無上のよろこびに思う。

4年前にポルトガルのカスカイスで、そして1987年にはコーチ部門と合同でフランスのストラスブルグでシンポジウムを開催した。

これらのシンポジウムで各審判部長諸氏から示唆されたいろいろなアイデアに関する討論は、PRCの業務にとって価値ある貢献をしてくれたばかりでなく、ルールとレフェリングについても我々の考えをより一層進展させる上で有力な票数を得た思いである。

バルセロナルールについて

一つの例として、私はストラスブルグで発表された意見について述べたいことは、1989年をルール改正の年としなかったことを第一にあげたい。諸氏が知る通り、ストラスブルグでは、例のバルセロナルールという型でのルール改正について討議が行なわれた。

この討論で、コーチやレフェリーは現行のルールで満足しており、すでに彼らは我々の求める型のハンドボールのやり方を持つておる(この点はストラスブルグで特に強調された)。しかもまだ技術的

戦術的可能性の完全利用にいたっていないとして、現行のルールに説明解説を新たに付加することだけ、1989年にルール改正はやらないう線までIHFに提案することになった。IHF総会はこの件の決議案を採択可決しソウルでのコングレスに報告した。今後新しい説明解説を8月1日発効をめざして分析を行なう。

しかしながら、今回我々は現在のルールが過去4年間で一応満足のなものとして今後使用を継続することとなったが、それが最良最適を意味しているとは言えない。我々のハンドボールは、プレイヤードけでなく観衆にとっても、マスメディアにとっても、スポンサーにとっても、現在は勿論のこと、将来にわたって常に人々を楽しませるものであり、魅力的なものではない。我々は常にこ

の上昇気運の継続維持を忘れてはならず、合わせて今後も論議される新しいアイデア開発に積極的でなければならぬ。

これが現代のハンドボールの置かれた状況である。なんとすればPRC(規則審判委員会)として我々はレフェリングの基礎に関することに責任をもち、ここでの最も難しい問題である。常に千変万化のなまの題材要素を相手としているのであり、それによって所期の方針でハンドボールの発展を促進すべきであると考えている。

この会合は、単にレフェリートレーニングのシンポジウムに提供されたチャンスというだけでなく、このテーマが中心となっている時間表では、3つのトピックス別に分けられ、基礎トレーニング、拡大向上トレーニング、エリートトレーニングがそれぞれである。加えて我々は、特別トレーニングでの多くの事例についても討論を準備している。

このシンポジウム実施にあたって、ストラスブルグで発表された諸氏の批評内容をとりあげて、グ

ループ活動のための十分な時間をとるように計画した。

レフェリートレーニングについてなぜレフェリーはトレーニングするのか? それは我々が可能な限りベストレフェリーを必要とするからという簡単な理由から、当然訓練を積んだレフェリーの方がそうでないレフェリーよりベターであるというだけである。

我々はこの際、いくらか批判的ではあるが、レフェリーのパフォーマンスが1986年の男子A世界の最高レベルに達し、そしてソウルでオリンピック大会では沈滞傾向を見ていることを確認せざるを得ない。我々は、このようなありさまを容認できない。我々は本来の道を進むための新しい方向を発見すべきである。勿論今すぐはこのテーマで本題に入るわけではないが、私としてはレフェリーの拡大向上トレーニングの必要性を強調せざるをえないのである。我々PRCとしては、レフェリーのスクーリングを助けるには限られた機会しかない。それは各国の国内問題である。けれども諸氏の努力についてはできるだけサポートする用意がある。我々としては、いつでも国内または地域のレフェリーコースに参加する用意はしているが、IHFのイベント大会へのレフェリーの準備については、

それぞれの国の責任でやってみることを期待している。

国際レフェリー登録について

過去4年間でPRCは国際レフェリーリスト規定とライセンスAに対しての公式レフェリーコース規定を発表したが、これらは総会の承認を経たものである。そこで私が強調したいのは、IHFレフェリー公式リストに毎年登録されるレフェリーは、国内の審判部長から、その資格を具体的に保証されなければならないということである。これは、とかくその登録が信頼性に乏しいように我々は受け取っているからである。こんなことでは、IHFは個々のIHFレフェリーの實力アップについて各審判部長をその責任から解放することは不可能である。年次登録にあたって諸氏はレフェリーが身体的にも知的にも良いコンディションにあって、なおかつ定期的に研修しており、そしてまたそれぞれの国内試合でその能力を現に示している者であることをIHFに保証すべきである。

そしてまたこれは、問題視されているIHFレフェリーの年次登録を絶対的に確実なものとするために、それらの国のレフェリーの代表としての信頼性を備えた能力のあるレフェリーを用意するのは、のつぎきならない義務なのである。どうか次の登録にあたっては、

書式の裏面を参照するなどして、すべての情報要素に留意してもらいたい。そして、5月31日までにバーゼルに届けられたい。

登録に際しての順位づけについて
審判部長諸氏にとつて登録の際 I H F 登録用紙に記載する「順位づけ」にも最大の注意を払うように強調する。ある年あるポジションに到達していたレフェリーは、それ以後それを保つことができなかった。各国の各ペアは毎年国内で比較評価されているはずである。

ここでは、I H F の観察報告書は観察チャンスそのものが極めて希であるために、何らの影響を支えるものとはならない。諸氏の知る通り、我々 P R C にはゴッドファザーシステムというものがあり、どここの国でも P R C のメンバーがその責任にあたっている。諸氏は彼の助言忠告を聞くことが出来るうえ、所属レフェリーについても良く知ることが出来る、その上もつと多く助けももらえるだろう。

一般的に言えば、I H F リストへの順位決定については国内レベルでの実技75%、国際試合の評価査定で25%の割合を基準としている。

ント大会へのレフェリー指名をするために必要不可欠のものである。我々は、それぞれの国のレフェリーを良く知っているわけではないから、諸氏の順位づけを特に信頼せざるをえないのである。もし P R C がその国の見解と相反することとなったときは、その国との問題を討議することとなるであろう。これは過去に何度かあったことで、問題のレフェリーの同意によりまるくおさまった。

レフェリー定年期限について

現行のレフェリー50歳定年制については検討されており、P R C としては今回のシンポジウムでこの件に触れることは歓迎する。誰しもこの定年期限に疑問を持つことは自由であるが、何らかの期限は定めなければならない。ある者は52、55歳まで可能であっても、他の者は45歳でトップクラスにとどまれないかも知れない。本当に正直に言つて、審判部長たる諸氏がその国のレフェリーがすでに順位づけの対象とならなくなれば、I H F へのリストから除外することに疑いなく十分な権限を持っているならば、この定年期限問題は省略されても良いことになろう。不幸にして、諸氏の中には50歳定年の背景に何らかの「隠し事」をしているのではないかと我々は感じており、いろいろな理由をかまえて50歳までの登録問題

に安易な道を選ぶようとしているのではないだろうか。我々は勿論のこと反対論で、諸氏と討論するつもりである。現在の定年期限の見方について、私は若干の国ではその将来の需要についてはまったく思えないことに驚きを感じている。明かに毎年一年オーバード状態であると感じている。これは、とりもなおさず審判部長はその国の I H F レフェリーが50歳に達すること、を当然知っていることになる。そこで、国際的に通用するトップレフェリーの補充交代を継続させるため定年期限を意識することも審判部長の義務である。

後継者育成について
ある国が、その国のトップに位置するペアがあるとしても、一方のレフェリーが年齢的に、またその他の理由で引退しなければならなくなれば、その国は後継者の選抜育成をしていないとして世界選手権大会への資格がないものとされるべきである。しかし、これは近年再々起こっていることである。我々の忠告を無視して、次のシーズンへの選抜を変更しない国は今までそのためのしはない。

しかしながら、我々はこの正しい路線が危うくなつて来つつあるように思っている。

諸氏が知る通り、P R C は世界選手権大会およびヨーロッパ大会のレフェリーを指名するだけであり、I H F レフェリーとして国際的に推薦任用される道を開くのはもともと各国審判部長の仕事である。それゆえ、この推薦については細心の注意を払ってもらいたい。もし、諸氏が国際的にトップレフェリーを望むならば、国際的スケールで選抜した上で、1ペアまたは2ペアを他の平均的 I H F レフェリーより多くの試合吹笛チャンス取得を確実にするようなトレーニングを施すべきである。

ベストレフェリーがこのような優先特恵的な大会にチャンスを獲得し、そのペアはハンドボールの世界を通じて急速に知られる存在となるであろう。他国からの招待を自国レフェリーと対等条件で共有することは容易であるが、このこと自体は必ずしもベストレフェリーとしての進歩に役立つとは限らない。

重ねて、加えて言うが、A リストに登録されたペア数が多過ぎると、それは選抜トレーニング (I H F) を行なう時に不利益となる。このことについては後日、ヤニス・グリーンベルガス (ソ連) が P R C の立場で述べるが、すべてのペアの中から選んで試合を割当てることが可能かどうか考えものである。



OSAKI

電気をみちびく。

未来へみちびく。

— 計測と制御 —

大崎電氣工業株式會社

〒141 東京都品川区東五反田2-2-7
 電話 (03) 443-7171(代表) FAX (03) 447-5844

前述の通り、我々としてはそんなに多くのレフェリーを必要としているわけではないし、当然のなりゆきとしてAリストに多数登録している国の立派なレフェリーであつても、質を重視して、少数を登録する国からの同等の良いレフェリーよりも少ない割当という結果になる。そこで、我々の忠告は、その国はIHFの要求するレフェリーリストに順序番号をつけることである。

1988〜1989シーズンのためのリストには320名のパネルA、335名のパネルBが登録されている。その中には、Bリストに10名以上候補者を入れている国が11ヶ国ある。ある国は、Aコースにパスする力があるとして、全部で17名も登録している。正直に言つて、私はこれらを信用しない。そこで、大事をとる意味で注意を喚起するが、Bリストと言ふものは、ウェイトイングリストのたぐいのものであり、このリストにある者は国際試合を担当することは許されていない。国際試合は、必然的に国際的テストに合格したレフェリーを要求するのが当然の権利である。中にはパネルAテストを受けずに、その国の内部事情で何年も前に登録された高年齢のレフェリーも若干見られる。

Bリストにある候補者は、Aへのテストが実施される時は出席を要求されるが、しかしこれはあく

までもAレフェリーが不足欠乏しているときのだけに行なわれるものである。そこで、ある国がより多くのAレフェリーを必要とする時は、前述のように、それぞれの国のAレフェリーの員数状態を調べることになる。こんな場合には、審判部長は、その地域のゴッドファーザーと相談して助言を得るようにしてもらいたい。我々としては出来るだけのことをするつもりである。

Aライセンズへの公式コースでは、PRCから2名出席して、候補者を良く知るためのチャンスにするが、このテストを終ると次に会うのはいつになるかわからない。公式コースにおいては、これが本質的にテストを前提としており、テスト試合に吹笛することこそ最重要性をもつものであるため、残念ながら事前トレーニングも出来ない。Bリストに登録される以前のレフェリートレーニングは審判部長の責任である。

カスカイス(ポルトガル)でのシンポジウムで、PRCはIHFレフェリーリストは各国の責任で作成すること、新たに、その順位づけをするように示唆した。今までのいろいろなリストをもとにして順位づけでの昇進または格下げが検証され、賛否の票によつては申請が拒否されることになる。PRCは4年毎の改選後直ちにこの仕事にかかつており、エリート

クラスの変動に対処するための良い方法手段を得ようとしている。この目的は勿論のこと、全般的に高い標準の幅広いトップレベルの確保にある。そして我々は多大の関心を持ってエリートレフェリーのトレーニングについての討論の機会が近々に到来するのを楽しみにしている。

エリートレフェリー研修について 今日のエリートレフェリーのための高度なトレーニングについては、プレイヤー側のと比べて恥ずかしいくらい貧困である。プレイヤー側はA世界選手権大会やオリンピック大会に出る時は、通常100日以上もかけて優秀なコーチのもとでトレーニングしている。彼らは、これらの大会前には各期間にわたつて無給またはそれ同然の休暇をとつてトップレベルのイベント大会出場準備にすべてを集中している。他方ふりかえつて、レフェリー側は?と云えば、3ヶ月前に行なわれるテストコースは別として、組織として彼らに示される最大限のことは大会開始日の当日の半日ミニコースに招くことだけしかないのである。ここで再び話題は、この困難課題に立ち向かえる優秀なレフェリーの供給について各審判部長の助力に信頼しなければならぬ。それを継続しなければならぬと言ふことに戻つてくる。

我々は、各審判部長が彼らのレフェリー準備に必要な諸条件(チャンス)の整備について可能なかぎりベストの努力するであろうと信じるしかない。これをしてくれれば、レフェリーは身体的にも知的にも良いコンディションを整えられ、そしてまたオフシーズン(オリンピックや世界選手権大会は通常オフシーズンに開催される)での試合のための感覚を維持することが可能となる。仮に、あるレフェリーが本来の基準から逸脱しているとの指摘で指名を取り消されたとしても、それはけつして不名誉なことではないが、何らかの世界選手権大会に国を代表する立場となるレフェリーが準備不足の状態で送り込まれることは明かにスキヤンダルであると言えない。

レフェリー活動の実情

1988年6月ユーゴスラビアのスコピエでオリンピック前のテストコースが行なわれたが、我々の友人たるイワン・スノイ氏がコーチ部門を代表して出席した。彼の仕事は、今までの実地場面の様子を報告することであり、次のようなコメントを示した(部分のみ)。

レフェリーは段階的罰則適用について極めて優柔不断である。レフェリーは防衛者が相手プレイヤーに對して、ボールを目的

くらし、ひろげるジャスコのカード

会員募集中

ファッションから食品まで
サインひとつでお買物。
ご入会手続きも簡単です。
お気軽にお申込み
ください。

お支払いもいろいろ
●月々のお支払いがラクな
リボルビング払い
●手数料なしのおトクな
一回払い
●お求めはいま、お支払いは
ボーナス一括払い

お申し込み、お問い合わせは、ジャスコ各店
サービスカウンター又は、販売員におたず
ねください。

JUSCO CARD
1234-56789-1234
1234-56789-1234
1234-56789-1234

ジャスコ

とせずに腕や脚を使うことを許してしまっている。ここで私はルール 8-13 を引用する。

「相手に対する動作(8-4, 11)での反則のとき、ボールでなくプレイヤーを対象としている場合には、罰則を段階的に適用しなければならぬ。この罰則の段階的適用は、スポーツマンシップに反する行為についても適用される。(17-1d, 17-13c)」

私の考えでは、現行のルールブックの中で 8-13 が最も重要であるとする。そして、ルールを守ることが何とコーチ陣によって支えられているということについて何か答えることはないのか?

◆ スノイ氏はこうも言っている。
「激しさと粗暴なプレイが勝利の手段であってはならない。」

これは真に素晴らしい響きのある言葉ではないか。しかし、我々レフェリーはこの目標が白熱した試合の中ではいとも簡単に忘れ去られてしまうことを知っている。それとも、白熱した試合の他に何か原因があるのか? ひよっとしたらコーチやプレイヤーは我々と一緒に講義室に座って我々の方針に賛成するだけであり、コートで勝利への戦いをしないつもりだといふのか?

いかなる場合でもレフェリーの義務は、ルールの定める範囲内での試合進行であることは言うまで

もない。レフェリーは限界基準を設定し、それから逸脱しないようにする。試合が終わってからプレイヤーに脱線したことを弁解告白しても何の役にも立たないし、「あんな試合にはとてもついていけない」と言われるだけである。レフェリーは罰則適用に勇気を持つべきであり、その状況に正確な判断評価を下さなければならぬ。難しいのは、罰を課して威圧するのではなく、試合状況の感知能力と勇気を具備することである。

◆ スノイ氏は続けて言う。(その引用)

「同じように、レフェリーは 8-14 (失格について) と 8-15 (追放) の適用について、しばしば不十分な取り扱ひをしてい。相手プレイヤーに対しての極端な反則または粗暴行為の場合、攻撃側は失格または追放とされるべきではないか。」

スノイ氏はコーチ部門のメンバーとして有能な人物であり、同時に全コーチの代表でもある。彼がくり返して我々に忠告しているのは、ルールの厳正な適用ということである。

うにレフェリーを訓練しなければならぬ。この部分の第 5 項では、チーム役員はチームの指導や世話をする上でスポーツマンとして見苦しくない精神で対処すべき権利と義務があると記されている。この実行では、チーム役員はベンチに座っていないければならない。第 5 項 2b を見ても、レフェリーや競技役員に対して義務妨害したり、侮辱したりする態度言行を禁じているのは明白である。

ベンチ規定についてのレフェリー

我々は国際レベルにおいてすら頻繁に多くのレフェリーが交代ベンチに寛容であるとともに、いかにレフェリーが彼らの傲慢さ、横柄さに弱いかも見ている。当然ながら、プレイヤーがベンチ役員の言動に大きく影響されることから、すべてレフェリーはベンチ役員のどんな点を許しました我慢すべきかをすでに良く知っているはずである。コート上の威信確立についての我々の努力は、すでにベンチにいる者の秩序を保つことで始められている。明かにこれは、まずレフェリーがその遵守状況を見て行動することを我々は要求する。

観察と評価システム
レフェリートレーニングには、また実際にレフェリー観察のことも含まれる。PRC は多くの国で優れた観察評価が実施され、レフ

エリーサイドにも正しい評価として認められていることを満足に思っている。どこでも多くのレフェリーが定年引退後もお別のハンドボールの分野で奉仕する道を見出して熱中できるのも好ましいことである。

多くの I H F レフェリーはもつと多くの観察レポートが作られていないことに不満を持つと聞いている。ここで諸氏に思い出してもらいたいことは、I H F のイベント大会には比較評価のため公式観察者が派遣されていることである。彼らはレポートを作成し、そのコピーはシーズン終りに諸氏のもとへ送られる。これはヨーロッパ大会のことを引用しているが、すべての試合に中立的立場の観察者を派遣する必要性は考えなくてよい。すべての場合、観察者の主要任務はレフェリーを見るだけでなく、試合全体を対象として見ることである。

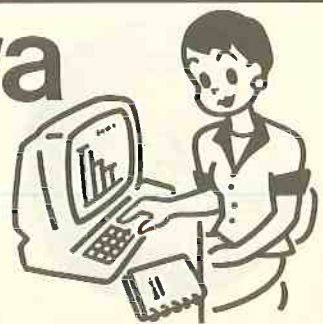
世界選手権大会やオリンピック大会では必ず一人の I H F 代表が立ち会うことになっている。そこでこれらのレポートをもつと広範囲に配布する可能性について考えてみたい。レポートは確かに作られた。しかし現在にいたるまで観察者の不十分な集中力のため、いつも出版できない状態にある。もし彼が一日に何試合か観察して、その他にまだ別の仕事を持っているとすれば、そのレポートの質は

Your Staff Daiwa

これからの時代、情報と金融は(ダイワ)が大いにお役に立てる分野です。



大和銀行



おそらく正式出版にほど遠い、低いものとなるであろう。この件の改善については注目する。

私はレフェリーのトレーニングとその他のレフェリーについての注意事項を話したが、実際レフェリーを訓練するということは、その前に彼らの素質の萌芽を見出すことを早期にスタートすべきであると考えている。

新人発掘について

多くの国が何らかのトラブルを起した挙句、レフェリー候補者を発掘するシステムを考えている（これはBリスト候補者のことではない）。彼らはどのスポーツの世界からでも良いが、世界のトップに達するプレイヤー以外で、将来の見込みの乏しい若者を、また別の角度では教師を、勿論体育教師を用いようとする。あるいは、任務以外の余暇時間を興味あるものにしたと考える警察や軍隊に在職する人もしばしば見られる。

一般的に言って、各自の職務で指導的役割を果たしている人の中から探し出すことは誠に結構なことである。彼らはスポーツの場でも同様の役割をつとめることに適しており、勿論我々としては前に述べたような権威をひけらかす熟練者よりも、むしろ試合のリーダーとしてふさわしいレフェリーと見ている。

何よりも普通で容易な手段は、高齢化したプレイヤーの中から新しいレフェリーを選び出すことである。しかしながら、これには例外もあり、この人物が30歳以上であり、その上過去15年間にレフェリーと問着を起したことがあれば、場合によっては喜んで迎える気持は反対となる。これと別にPRCは30歳ですでに何年にもわたってトップリーグで素晴らしい吹笛を示している若い人々の関心を引きつけるようにしたいと考えている。これらの場合は、それぞれ国内で向上を図る好適の候補者であり、2・3年のうちに国際ライセンスに挑戦可能となるであろう。

女性レフェリーについて

私が近年不可解に思っていることは、性別による資質の評価についての問題の多い現在、女性でレフェリー部門で成功する者が誠に少ないということである。もし、少数でもペアがいるのであれば、彼女らにジュニアや女子部門だけでなくもっと多くの試合を吹かせられるものか？ 私はもっと多くのレフェリーがこの問題に取り組み、新人発掘そして補充とトレーニングについての経済的援助の可能性の有無を問題にしてもよいのではないかと考えている。スウェーデンの例をあげれば、国庫による基金が中央スポーツ機関を通じ

てハンドボール協会へ、「女性レフェリー育成のためのプロジェクト用」に割当配分されている。この件についての結論は、まだ時期尚早である。

私は自宅でも、このことについて家族と論議し、私が女性には困難状態の発生について素早く正確な決定を下すことには不向きではないかとの説をしたところ、私の妻はこれを軽蔑的に拒否した。私は諸氏の研究調査がうまくいくように願っている。

不運なことに、レフェリーの不足により中立的な立場のレフェリーが一人の状態で試合をしなければならなくなり、それをクラブチームに了承させて試合に出してしまうといった悪い状態は時として止むを得ないであろうが、悲しいかな、これはレフェリーの立場を危うくするものである。

ルールとレフェリーに関する大量の問題点から、私はPRCがハンドボールの発展に極めて重要であると考えるいくつかを選び出した。我々はハンドボールを委託されている限りの業務を実行するに当たって、現在の立場、地位で最善を尽くすだけでなく、ハンドボールの将来を幅広い視野と聴感で見渡す義務を担っているのである。

我々は常に新しいアイデアを歓迎するとともに、他のハンドボ

ール専門家たちと共同で実験的試行や評価を行なう態勢を確立しなければならぬ。

我々一同（各国審判部長、ハンドボール専門家、PRCとIHFの代表者）は、それぞれの責任を自覚するべきである。試合はレフェリーなしでは出来ないのだ。良いレフェリーはどこにでも転がっているものではない。レフェリーとは、素質あるものを発掘して育てあげるべきものであるということ。以上が今回のシンポジウムの目標である。

私はリエージュでの会合が困難はあるにしても、成功裡に終わることを期待しており、今回の催しに深甚な心づかいで準備に当たった人々に厚く御礼を申し上げる。この人たちの積極的支援があればこそシンポジウムは成功に導かれるものなのである。我々がここで見た徴候は正に「良」である。さあ、このシンポジウムを通じて一緒に責任を果たすことにとりかかろう。

御静聴を謝す

エリック・エアラス



日本が生んだ世界のボール

日本ハンドボール協会検定球 (J・H・A)

タチカラミムレスボール

タチカラのハンドボールは縫ボールと同じ構造のチューブが離れたL・B・C中空製法です。

TACHIKARA
タチカラ

タチカラ株式会社

東京都台東区松ヶ谷1-11-7
東京・大阪・名古屋・福岡・札幌

提 言

試合中の抗議を 少なくするために

谷戸忠司
(読売新聞運動部)



ハンドボールの試合取材するたびに、気になることがひとつある。それは、レフェリーの判定にベンチがクレームをつける度合いが、他の球技の試合に比べて、きわめて多いことだ。先日、日本リーグが女子の優勝が決まった大崎電気―日本ビク

ター戦でも、こんなシーンを目撃した。前半、大崎のエース尹秉順が右サイドから放ったシュートが、ビクタ―GKの顔を直撃。GKは顔をおおって倒れ、これを見たレフェリーは尹を退場処分にした。

もちろん、大崎の李相玉監督は猛烈と抗議した。「キーパーの顔の両側はシュートの狙いどころのひとつ。決して顔を狙ったわけではない。結果的に当たったからといって、退場はひどすぎる」というわけだ。

判定は覆らなかつたが、これはレフェリーのミスジャッジ。関係者に聞いたところによると、大学の試合では、「顔にボールをぶつけると退場」の申し合わせがあるそうで、それを日本リーグの試合でも適用してしまつたようだ。試合後、レフェリーの一人は「退場にすべきではなかつた」と誤りを認めていたという。

しかし、この判定は、その後の両チームを必要以上にエキサイトさせ、内容的につまらない試合にしてしまつた。

スピードがあつて身体接触も多いハンドボールが他の球技に比べ、レフェリングが難しいことは確かである。だが、審判員の技術の差が大きく、試合によって判定が違つてしまうのは困る。実際、全日本総合などを取材していると、監督などから「次の試合は〇〇さんが(笛を)吹くからやりにくい」などという言葉を聞くことがある。当時は、先刻承知していることと思うが、審判技術の「底上げ」は急務である。

また、クレームの多さは、レフェリーと現場とで、プレーの判定についての認識が食い違つていることが、一因になつていように思う。

一般に、現場サイドは「反則を厳しく取つて、退場者が続出したら試合はつまらなくなる」という考え方で、審判側は「ルールはルール」が基本線のようなのだ。

どちらがいい、悪いというのではない。ただ、事前に「このプレーはOK、これは反則」ということを互いに承知していれば、抗議はぐんと少なくなるはずだ。

そのために、各チーム指導陣と審判陣との合同ルールミーティングを開く必要がある。それも、年に一回などでなく、大きな大会のたびに開いて、意思統一を図るべきだろう。試合によって反則の基準が異なるようでは、選手もプレーに自信が持たなくなる。

から「次の試合は〇〇さんが(笛

第14回日本リーグ2部

男子・中村荷役 女子・日立栃木

が優勝を飾る

男子

◇10月7日(土)

熊本県総合体育館

本田技研 熊本 28 (1711-1114) 25 日本電装

〔戦評〕前半、お互いにシュートミスが目立ち互角のスタート。電装がリード、それを本田が追いかける展開で進んだ。16分過ぎ、本田が荒田、三代の左腕コンビで逆転に成功、そのままリードを奪うかと思われたが、再び電装が追いつき、本田の甘いディフェンスもあって14-11と電装が3点をリ

得点	0	0	3	3	6	2	1	5	0	5	0
本	中	高	矢	荒	三	松	田	山	川	村	田
田	尾	本	野	田	代	村	中	口	崎	田	中
内	尾	本	野	田	代	村	中	口	崎	田	中
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得点	0	0	7	0	1	5	5	1	3	0	3
電	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
装	橋	村	本	木	本	田	崎	口	藤	波	田
得											

〔戦評〕地方に勝るトヨタ自動車は、前半、サイド、ポスト、ロングと多彩な攻撃で徐々に差を広げた。

後半に入り、豊田自動織機はGKの活躍で立ち上がり5分までに5点差と詰め寄ったが、ここまで川田の連続得点などで徐々に加点、トヨタ自動車の楽勝となった。

得002303510011
織機 田村江畑山内田藤田浦田
〔柴中蟹奥諫倉山新伊鎌杉山〕

G K P (審・岡本) (1) 16

〔戦評〕前半開始早々、トヨタ車体が積極的なディフェンスから日本電装のパスをカットして速攻を連発、主導権を握る。その後両チームとも得点を重ねたが、16―9と車体が7点をリードして前半を折り返す。

後半に入っても、車体は吉統、長野を中心に加点したのに対し、電装は再三のチャンスを通し、追い上げのリズムをつかめないまま車体が逃げ切った。

トヨタ 31 [1516 | 169] 25 日本電装

〔戦評〕前半開始早々、トヨタ車体が積極的なディフェンスから日本電装のパスをカットして速攻を連発、主導権を握る。その後両チームとも得点を重ねたが、16―9と車体が7点をリードして前半を折り返す。

後半に入っても、車体は吉統、長野を中心に加点したのに対し、電装は再三のチャンスを通し、追い上げのリズムをつかめないまま車体が逃げ切った。

得0090136230001
山橋村本崎本田崎口藤波田
〔福高杉橋藤久岸岡樋近難柴〕

G K F P (審・細沢) (5) 25

〔戦評〕前半立ち上がりから点の取り合いとなったが、15分過ぎから竹芝の速攻などがよく決まり、前半は竹芝の3点リードで終る。後半に入っても終始竹芝のペースで進み、一時は5点差までリードしたが、本田も粘り強く追いつけたが、結局前半のリードを保った竹芝が快勝した。

得00705332011000
宮工吉福岡河藤平久長蓑井

G K F P (審・菊島) (2) 31

〔戦評〕前半立ち上がりから点の取り合いとなったが、15分過ぎから竹芝の速攻などがよく決まり、前半は竹芝の3点リードで終る。後半に入っても終始竹芝のペースで進み、一時は5点差までリードしたが、本田も粘り強く追いつけたが、結局前半のリードを保った竹芝が快勝した。

得001066208020
尾本野田代村中口崎田中内

G K F P (審・古屋) (5) 25

〔戦評〕前半立ち上がりから点の取り合いとなったが、15分過ぎから竹芝の速攻などがよく決まり、前半は竹芝の3点リードで終る。後半に入っても終始竹芝のペースで進み、一時は5点差までリードしたが、本田も粘り強く追いつけたが、結局前半のリードを保った竹芝が快勝した。

得00124216210000
竹小大中桐馬三今野吉ノ森百合

G K F P (審・野谷) (4) 28

◇10月21日(土)
岩井市総合体育館

中村荷役 30 [1119 | 87] 15 豊田

〔戦評〕前半の立ち上がりから中村荷役が圧倒、豊田自動織機は10分過ぎにようやく初得点をあげる拙攻で、前半で19―7と大差をつけられてしまった。

後半に入り、豊田も懸命の反撃を見せたが、中盤得点が伸びず、中村が終盤にかけて突き放し、大差をつけて快勝した。

得002450200110
織機 田村江畑野山内田藤田浦田

G K F P (審・高野) (1) 15

〔戦評〕前半、トヨタ自動車は川田、杉元のロングシュートで加点。一方日本電装は、サイド及びポストで加点し、シーソーゲームを展開したが、トヨタがやや有利で前半を終了。

得005325445110
中石飯田堀大下塚三 栗田大

G K F P (審・高野) (0) 30

〔戦評〕三景は前半からよく走り、19―10と大きくリードして折り返す。守ってはGK中村の好守で爆発的な攻撃力の本田熊本を押さえ、攻めでは金井がよく動き、斉藤、高橋のロング、セミロングで加点した。

得008320613142
山橋村本本上田上崎口藤波田

G K F P (審・桜井) (4) 30

後半、本田熊本も反撃を見せ、残り7分には28―24と追い上げたが、今一歩追いきれず、終盤再び突き放されてしまった。

得0010612012032
尾本野田代村中口崎田中内

G K F P (審・町屋) (5) 27

〔戦評〕トヨタ車体・吉統のポストシュートでゲームが始まる。トヨタは長野のミドルシュートを中心とした攻撃、一方竹芝はポストを利用した攻撃でセットでは互角の状態でもわり合うが、竹芝が2点をリードして折り返す。

得0086704270000
三景 村橋藤橋山原井藤士永野橋

G K F P (審・佐々木) (4) 34

〔戦評〕前半、トヨタ自動車は川田、杉元のロングシュートで加点。一方日本電装は、サイド及びポストで加点し、シーソーゲームを展開したが、トヨタがやや有利で前半を終了。

得0033301202080
田林統島田島合長川山野田

G K F P (審・野谷) (3) 19

〔戦評〕前半、トヨタ自動車は川田、杉元のロングシュートで加点。一方日本電装は、サイド及びポストで加点し、シーソーゲームを展開したが、トヨタがやや有利で前半を終了。

得0049151310092
自動車 井森井田井江西村本尾元

G K F P (審・今井) (2) 35

立ち上がりトヨタのロングシュートを阻止、流れが変わるかに見えたが、5分ぐらいから再びロングが決まりだし、着実に加点して、リードを保って逃げ切った。

得0033301202080
車体 田林統島田島合長川山野田

G K F P (審・野谷) (3) 19

〔戦評〕トヨタ車体・吉統のポストシュートでゲームが始まる。トヨタは長野のミドルシュートを中心とした攻撃、一方竹芝はポストを利用した攻撃でセットでは互角の状態でもわり合うが、竹芝が2点をリードして折り返す。

得0086105230000
竹小大中桐馬三今野吉ノ森百合

G K F P (審・野谷) (2) 25

〔戦評〕前半、トヨタ自動車は川田、杉元のロングシュートで加点。一方日本電装は、サイド及びポストで加点し、シーソーゲームを展開したが、トヨタがやや有利で前半を終了。

得0033301202080
車体 田林統島田島合長川山野田

G K F P (審・野谷) (3) 19

〔戦評〕前半、トヨタ自動車は川田、杉元のロングシュートで加点。一方日本電装は、サイド及びポストで加点し、シーソーゲームを展開したが、トヨタがやや有利で前半を終了。

得0086105230000
竹小大中桐馬三今野吉ノ森百合

G K F P (審・野谷) (2) 25

◇10月28日(土)
知立市福祉体育館

トヨタ 28 [1216 | 1610] 26 三景

〔戦評〕立ち上がり、三景にミスが目立ち、これを確実に得点に結びつけたトヨタが4-1とリード。その後もトヨタは君島、長野を軸に得点を重ねた。一方三景も斉藤福士を中心に攻撃するが、トヨタGK宮田の好キープینگに合い、得点が伸びず、16-10とトヨタが6点をリードして折り返した。

後半立ち上がり、三景が先手をとるが、なかなか連続ゴールを奪えず、5-10分にかけてミスから相手に速攻を許し苦しい展開となる。15分過ぎより三景GK中村のキープینگがようやく冴えだし、猛追を見せたが一步及ばなかった。

得004222091440
景村橋藤橋山原井藤村士永
〔三〕中長育高小本金近田福福

G K F P (審・杉本) 工藤 藤

〔車体〕田林続島田島合長川山野田
〔宮村吉君福岡河藤平久長袁保〕
得00550113300110

◇10月28日(土)
知立市福祉体育館

日本電装 27 [1512 | 1010] 20 豊田
自動織機

〔戦評〕豊田・奥畑のミドルで先制、さらに蟹江がPT2本を確実に決め、豊田の優勢で試合が進んだ。日本電装も杉村の豪快なロングで反撃し、終盤にはGKの好守好ディフェンスから速攻を生かして逆転、12-10で前半を終了。

後半に入ると、若い日本電装の走力が豊田を上回り、速攻を軸に得点を重ね、リードを広げて快勝した。

得0062422010212
機田村江畑野山内藤田浦田
〔織機〕柴中蟹奥大諫倉山伊鎌杉山

G K F P (審・浅野) 工藤 藤

〔装電〕橋村本本山上崎口藤波田
〔高森〕橋村橋久岸井岡樋近難柴
得0065441431030

◇10月29日(日)
松山市総合体育館

トヨタ 28 [1711 | 1117] 28 本田技研
自動車

〔戦評〕前半立ち上がり、本田が田中孝のPTで先制、以後も快調に加点、17-11と6点をリードして前半を終える。

後半に入り、中盤までは一進一退の互角の展開であったが、中盤を過ぎてトヨタが猛追を見せ、遂に終了1分前にはトヨタ・川田が決めて28-28の同点として引き分ける。

得0000035208010
田尾本野田代村浩口崎田孝内
〔本〕中宮矢荒三松田山川村田堀

G K F P (審・柳原) 中

〔自動織機〕井森井田井江西村本尾元
〔西富香川酒堀中石松杉森〕
得0037360001170

◇10月29日(日)
岩手県営体育館

中村荷役 輪 32 [2012 | 1010] 20 竹芝精巧

〔戦評〕前半立ち上がり、中村がやや優位に展開、終始リードを保って展開したが、竹芝も5本のPTを決めるなど、粘りを見せて12-10と2点差で終了。

後半に入ると、中村・下戸成、三尾が立て続けに得点をあげ、竹芝を一方的に引き離して大差をつけて快勝した。

得008420501000
芝幡屋間木場本村崎川瀬口合
〔竹〕小大中桐馬三今野吉一森百

G K F P (審・小笠原) 高橋

〔中〕井塚口田戸木成尾 巻原中
〔石飯田塚堀大下三 猪栗田〕
得00101007560012

◇11月3日(金)
山形・北村山高校体育館

本田技研 25 [169 | 118] 19 豊田
熊本

〔戦評〕前半立ち上がり固さの見えた両チーム、10分まで3-2というロースコアの展開。豊田はシュートミスが多く、9-8と本田が1点をリードして折り返す。

後半に入り、本田は松村を中心に着々と加点、豊田も後半は数少ないシュートを確実に決めて粘りを見せたが及ばなかった。

得0014440070021
機田村江畑野山内田藤田浦
〔織機〕柴中蟹奥大諫倉山新伊鎌杉

G K F P (審・星川) 佐東

〔本〕尾本野田代村浩口崎田孝内
〔中〕中宮矢荒三松田山川村田堀
得000031110007030

◇11月3日(金)
山形・北村山高校体育館

中村荷役 輪 34 [1717 | 1512] 27 トヨタ
運

〔戦評〕前半、中村は呉のシュートを中心に好調な滑り出しを見せ終始リードを奪う。

後半に入っても同様な展開で、両チームともにディフェンスに荒さがあがり、点の取り合いとなったが、呉を中心として得点力に上回

A4版84ページ・カラーページにスーパーショット満載!
月刊誌 スポーツイベントハンドボール
毎月20日全国書店にて発売中!

1冊¥600 年間購読(1年間12冊・¥7,200/半年間6冊・¥3,600)

(株)スポーツイベント 〒101 東京都千代田区神田小川町1-9 川上ビル3F ☎03-294-5231(代)

る中村が逃げ切った。

得0064037000070
田林統島田島合長川山野田
〔車〕宮村吉君福岡河藤平久長袁保

G K F P (審・鎌田)

〔井塚口田戸木成沼尾 原中
村〕石飯田塚堀大下大三 栗田
得0062402151004

◇11月3日(金)
山形・北村山高校体育館

三 景26 [1115-1112] 23日本電装

〔戦評〕三景はG K中村の好守で安定した攻防を見せた。一方、日本電装は若さが出てミスが目立ち、15-12と三景が3点をリードして前半を終了。

後半に入り、立ち上がり日本電装はいったんは同点にまで追いついたが、中盤再び突き放され、一歩及ばなかった。

得008101323050
橋村本崎本上崎口波田
〔電〕高杉橋藤久岸井岡樋難柴

G K F P (審・伊藤)

〔村〕井塚口田戸木成沼尾 原中
景村川藤橋山原井藤村士永橋
得0083403306110

26 (1) P T (4) 23

◇11月3日(金)
山形・北村山高校体育館

竹芝精巧30 [1317-179] 26トヨタ自動車

〔戦評〕元気のないトヨタに対し竹芝は馬場、桐木、中間とセット、速攻とそつなく加点、17-9と大きくリードして前半で大勢を決した。

後半に入り、トヨタも懸命に反撃、残り10分を切って速攻、セットと得点を重ねたが、前半の点差が大きく、追いつくまでには至らなかった。

得005820005123
井森井田井江村本尾上元
〔西〕富香川酒堀田石松村杉森

G K F P (審・青木)

〔芝〕幡屋間木場本村崎川野口野
竹小大中桐馬三今野吉長森百
得00108315020000

◇11月4日(土)
山形・北村山高校体育館

竹芝精巧25 [1411-1110] 21日本電装

〔戦評〕前半立ち上がり、竹芝・中間が先制、その後一進一退の展開が続く、11-10と竹芝の1点リードで折り返す。

後半も全く互角の展開で一進一

退をくり返したが、中盤を過ぎて中間などの活躍で竹芝がじりじりと引き離して逃げ切った。

得002304340050
橋村本崎本上崎口藤波田
〔電〕高杉橋藤久岸井岡樋難柴

G K F P (審・星川)

〔幡〕屋間木場本村崎川野口野
竹小大中桐馬三今野吉一森百
得00115022403000

◇11月4日(土)
山形・北村山高校体育館

中村荷役 運輪 29 [1613-1311] 24本田技研

〔戦評〕優勝への大事な一戦とあって立ち上がりやや固さの見た中村だったが、中盤着々と加点、13-11と2点をリードして前半を終了。

後半に入っても一進一退の展開
得0001344319120
尾本野田代村浩口崎田孝内
〔本〕中宮矢荒三松田山川村田堀

G K F P (審・高野)

〔村〕井塚口田戸木成沼尾 原中
〔石〕飯田塚堀大下大三 栗田
得004434050047002

ながら、終始先手をとった中村が安定した攻守で逃げ切り、6年ぶりの優勝を決定づけた。

◇11月4日(土)
山形・北村山高校体育館

トヨタ自動車 37 [1621-1710] 27トヨタ

〔戦評〕前半立ち上がりから自動車に着々と加点、一方の車体はなかなか得点が伸びず、10分には8-3と自動車リード。その後自動車は全員ムラなく得点、21-10と大きくリードして前半で勝負を決定づけた。

後半、車体も懸命の反撃を見せ、激しい点のとり合いとなったが、前半の点差が大きすぎた。

得005203520010
田林統島田島合長川山野田
〔車〕宮村吉君福岡河藤平久長袁保

G K F P (審・安孫子)

〔井〕森井田井江西村本尾元
〔西〕富香川酒堀中田石松村杉森
得006120031533340

◇11月4日(土)
山形・北村山高校体育館

三 景27 [1314-1119] 20豊田

〔戦評〕前半立ち上がり、三景がシュートチャンスを実に決めて優位に立つ。中盤から豊田も互角の攻防を見せるが、14-9と三景が5点をリードして前半を終る。

後半も三景がいい立ち上がりを

見せ、その後豊田も全く互角の展開を見せたものの、点差を縮めることはできなかった。

得006265010000
田村江畑野山田内藤田浦田
〔織〕柴中賢奥大諫倉山伊鎌杉山

G K F P (審・鎌田)

〔村〕井塚口田戸木成沼尾 原中
景村川藤橋山原井藤村士永橋
得007170620130
〔三〕中北斉高小本金近田福福高

◇11月5日(日)
東根市体育館

中村荷役 運輪 37 [1720-1711] 28日本電装

〔戦評〕中村はスタートこそ固かったが、田口、呉の両大砲が豪快なシュートで前半を20-11と大きくリードを奪った。

後半、日本電装も互角の勝負を展開したが、前半の大量リードで余裕をもった中村が、そのリードを守り切って全勝で優勝を飾った。

得006615320140
橋村本崎本上崎口藤波田
〔電〕高杉橋藤久岸井岡樋難柴

G K F P (審・星川)

〔村〕井塚口田戸木成沼尾 原中
〔石〕飯田塚堀大下大三 栗田
得001133304211111

37 (3) P T (1) 28

◇11月5日(日)
東根市体育館

豊田 20 [101117] 18 竹芝精巧
自動織機

〔戦評〕前半立ち上がりは五角の展開を見たが、中盤からじりじりと豊田がリードを奪い、10-7と3点をリードして前半を終了。後半に入ると、両チームともシユートミスが目立ち、6分間互いに無得点の立ち上がりを見たがその後全くの一進一退の展開。竹芝も懸命の追撃を見たが僅かに及ばなかった。

得005233212000
芝幡屋間木場本村崎川瀬口野
竹小大中桐馬三今野吉一森百合

G K F P (審・菅野) (半田)

機)田村江畑野山内田田浦田
織)柴中蟹奥大諫倉山新鎌杉山
得0072500402000

◇11月5日(日)
東根市体育館

トヨタ 35 [16191312] 25 三景
自動車

〔戦評〕前半20分まではほぼ互角の展開であったが、残り10分を切ってからトヨタが一気に得点を伸ばし、実に10分間で11得点をあげて19-12と7点をリードして折り返す。

後半に入ってもトヨタが先行、三景も終盤追撃を見たが、点差が開きすぎてしまった。

得00222106437000
景村橋藤宏山原井藤村士永裕
三)中長斉高小本木金近田福福高橋

〔自動〕井森井田井江西村尾元 森
〔西富〕香川酒堀中田松杉
得00682617050

◇11月5日(日)
東根市体育館

本田技研 35 [1718129] 21 トヨタ
熊本

〔戦評〕前半立ち上がり、トヨタはシユートミスを重ね、実に10分間無得点。一方本田は着々と加点

女子

◇10月8日(日)
富山県総合体育館

北国銀行 32 [1418155] 10 JUKI
自動織機

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともシユートミスが多く、15分頃まで5-3とロースコアであったが、中盤過ぎから北国が速攻などで着々と加点、18-5と大きくリードして前半を終了。後半に入っても流れは変わらず

して18-9と大きくリードして前半を終了。後半に入っても流れは変わらず、着々と得点を加える本田に対し、トヨタも頑張りを見せたものの及ばなかった。

得007661112211001
体)田林統島田島合長山野田上
車)宮村吉君福岡河藤久長兼井

〔自動〕尾下野田代村浩口崎田孝内
〔中宮〕矢荒三松田山川村田堀
得0011762232382

◇10月10日(火)
秋田・湯沢高校体育館

日立栃木 29 [151417] 16 ムネカタ
自動織機

〔順位〕①中村荷役運輸②トヨタ自動車③本田技研熊本④竹芝精巧⑤三景⑥トヨタ車体⑦日本電装⑧豊田自動織機

北国は松田、林などが着々と加点、一方のJUKIは依然としてシユ

得015001122000
U)角 塚藤田井田原谷藤田中
J)大 石佐上石嶋伊熊武羽田

G K F P (審・光安) (中山)

〔戦評〕前半立ち上がり1分、荒木のベナルティースローで先取点をあげたブラザー工業は、前半10分で6-2と主導権をとった。そ

の後も速攻、ポストプレーなど多彩な攻撃で加点、17-4と大きくリードして折り返した。後半、JUKIもよく粘り、一進一退の攻防が続いたが、前半の点差が大きく、そのままあぶなげなく、ブラザー工業が逃げ切った。

得024120020000
U)角 塚藤田井田原谷藤田山
J)大 石佐上石嶋伊熊武羽田

〔工〕本住木永栗倉上尾藤田斐中
〔西〕荒末小坂道松進野甲田
得0080000336420

◇10月14日(日)
明石中央体育館

日立栃木 25 [1015129] 21 ソニー
自動織機

〔戦評〕前半7分まで日立が4-0とリード、ソニーは永尾のロングシュートで1点を返すが、日立の固いディフェンスに手こずり、

得00500003020038
二)多 石賀元山石本 郷口山住尾
〔阿古〕藤平白楠 林 東山安大永

G K F P (審・馬場) (浜田)

〔戦評〕前半立ち上がり1分、荒木のベナルティースローで先取点をあげたブラザー工業は、前半10分で6-2と主導権をとった。そ

の後も速攻、ポストプレーなど多彩な攻撃で加点、17-4と大きくリードして折り返した。後半、JUKIもよく粘り、一進一退の攻防が続いたが、前半の点差が大きく、そのままあぶなげなく、ブラザー工業が逃げ切った。

得024120020000
U)角 塚藤田井田原谷藤田山
J)大 石佐上石嶋伊熊武羽田

〔工〕本住木永栗倉上尾藤田斐中
〔西〕荒末小坂道松進野甲田
得0080000336420

◇10月14日(日)
明石中央体育館

日立栃木 25 [1015129] 21 ソニー
自動織機

〔戦評〕前半7分まで日立が4-0とリード、ソニーは永尾のロングシュートで1点を返すが、日立の固いディフェンスに手こずり、

得00500003020038
二)多 石賀元山石本 郷口山住尾
〔阿古〕藤平白楠 林 東山安大永

G K F P (審・馬場) (浜田)

〔戦評〕前半立ち上がり1分、荒木のベナルティースローで先取点をあげたブラザー工業は、前半10分で6-2と主導権をとった。そ

ミスから日立の速攻を許し、15-9と日立の6点リードで折り返す。後半、ソニーが足をよく動かし積極的なディフェンスで対抗、再三退場者を出すのが、踏んばり、シューゲームとなるが、日立が25-21で逃げ切った。

◇10月14日(土)
明石中央体育館

北国銀行 41 (2219-18) 12 ムネカタ

〔戦評〕前半立ち上がり、北国・金の鋭いカットインで先行したが、その後両チームとも動きが固く、シューミスが目立った。10分を過ぎると動きもスムーズになり、北国は宮本の出足の速い速攻、サイドシュートなどで着実に加点していった。一方ムネカタは、5分桜井のペナルティーで初得点をあげたが、北国の固い守りを崩せず20分まで無得点が続いた。その後はムネカタ桜井のロングなどで加点したが、19-4の大差で前半を終了した。

得点	0000208020000
選手	妻崎 藤川 名田 井橋 野木 藤
選手	〔我山 伊皆 川太 桜高 上菅 佐遠〕
選手	〔戸井 後田 野 堀 川 金 森 本 下 本〕
選手	〔北 木 岩 丹 松 矢 北 宮 松 谷〕
得点	0032342894333
選手	〔国 戸 井 後 田 野 堀 川 金 森 本 下 本〕
選手	〔北 木 岩 丹 松 矢 北 宮 松 谷〕
得点	41 (4) P T

の速攻、金のスピードあるロングシュートで加点した。一方ムネカタは菅野のサイドシュートなどで得点するが、最後まで止めることができず、大差でゲームが終了した。

◇10月15日(日)
明石中央体育館

ソニー 25 (1312-11) 19 ムネカタ

〔戦評〕開始早々、ソニー藤元が速攻で押し込み5点を連取する。ムネカタは9分、太田のカットインで初得点。ソニーは山口のミドル、永尾のロング、ムネカタは速攻、カットインで得点を重ねる。ムネカタ桜井のロングを再三ソニーGK阿多石がはじき返し、よく守った。ソニーはPT返すと得点を重ね、12-8で折り返した。後半、ムネカタはソニー伊藤にマンツーマン・ディフェンスでリズムを崩しにかかるが、ソニーは走り回り、シュートへ。ムネカタもポスト、サイドで追い上げるが

得点	00111154232000
選手	妻崎 藤川 名田 井橋 野木 藤
選手	〔我山 伊皆 川太 桜高 上菅 佐遠〕
選手	〔石賀 元山 本 郷 口 山 住 尾〕
選手	〔ソ 阿 古 藤 平 楠 東 山 安 飯 大 永〕
得点	007315140004
選手	〔ソ 阿 古 藤 平 楠 東 山 安 飯 大 永〕
選手	〔石賀 元山 本 郷 口 山 住 尾〕
得点	25 (2) P T

ソニーは速攻、PTなどで加点して逃げ切った。

◇10月15日(日)
明石中央体育館

日立栃木 27 (1215-11) 17 JUKI

〔戦評〕立ち上がり、日立・飯塚のカットインで先行。その後両チームとも当たりが厳しいゲームとなった。中盤になり、JUKIのミスから日立は速攻を連発して得点を重ね、前半15-6と日立が大きくリードして折り返した。後半もいきなり日立が3点連取するなど日立のペースでゲームが進み、JUKI佐藤のロング、嶋田のポストシュートなどで反撃を見せるが、結局前半の点差が大きすぎ、追いつくことはできなかった。

得点	0 1450502000
選手	塚 藤田 井田 原谷 田中山
選手	〔J 大 石 佐 上 石 嶋 伊 熊 羽 田 平〕
選手	〔本 津 苗 永 田 岸 鶴 塚 田 毛 井 堤〕
選手	〔日 岡 梅 尾 神 柳 山 吉 飯 岡 石 新 堤〕
得点	00514221630041
選手	〔本 津 苗 永 田 岸 鶴 塚 田 毛 井 堤〕
選手	〔日 岡 梅 尾 神 柳 山 吉 飯 岡 石 新 堤〕
得点	27 (2) P T

◇10月15日(日)
明石中央体育館

北国銀行 29 (1613-1311) 24 ブラザー工業

〔戦評〕立ち上がり、北国・金がPTで先行、しかし、ブラザーも松尾のサイドシュートで追いつき、荒木のロング、小栗のサイドで逆転、7分には3-1とリード。北国もロングを立て続けに決めて再逆転、以後互いに一進一退の展開で、13-11と北国の2点リードで前半を終了。

後半に入り、前半同様一進一退の攻防が続いたが、ブラザーはとうしても追いつくことができず、終盤得点を追加した北国が粘るブラザーをふり切った。

得点 0057106230000
選手 本住 木永 栗倉 上尾 藤田 斐木
〔岡 西 荒 末 小 坂 道 松 進 野 甲 高〕

得点	00152400036008
選手	〔北 木 岩 上 丹 松 矢 北 金 森 呉〕
選手	〔戸 井 田 林 後 田 野 堀 川 金 森 呉〕
選手	〔青 森 県 総 合 運 動 公 園 体 育 館〕
得点	29 (2) P T

◇10月22日(日)
青森県総合運動公園体育館

JUKI 27 (1611-1211) 23 ムネカタ



中村荷役運輸株式会社

代表取締役社長 中村 昭光
本社 〒108 東京都港区芝浦 2-3-39
電話 東京 (03) 451-4161(代)

創業71年

から一歩リード、ムネカタはPTをJUKI G K大角に阻まれるなど得点できず、JUKIが立て続けて加点、ふり切った。

得000710633300
妻崎藤川名田井橋野野木藤
〔ムネカタ〕 遠々々々
〔我山伊皆川太桜高上菅佐遠〕

G K F P (審・工藤) (山)

U 角 塚藤田井田原谷藤田中
J 大 石佐上石嶋伊熊武羽田
得0 57612060000

◇10月22日(日)
京都・西京極体育館

ブラザー 23 (1013 | 117) 18 ソニ
工 業 (戦評) 前半、ブラザー・野田の

カットイン、ソニー・大住の速攻によりゲームが動きだし、10分まで互いに一進一退で進む。15分過ぎ、ブラザー・荒木のロングとソニーに3回の痛い退場があった間に着実に得点を重ね、6点差で前

得0051030300015
石賀元山本 郷口山 住尾
〔阿古藤平楠 林 東山安 飯 大永〕
G K F P (審・小佐路山) (山)

半を終える。

後半に入り、ソニーはブラザー・野田にハーフマンツーツをつけ、ブラザーの攻撃を抑えるが、前半の点差を縮めるまではいかず、ブラザーが逃げ切った。

◇10月28日(土)
知立市福祉体育館

日立栃木 25 (1510 | 79) 16 ブラザー
工 業 (戦評) 前半立ち上がり2分、ブラ

ザーが荒木のミドルシュートで先制。その後もポスト、PTを確実に決めて10分には4-1とリードを奪う。しかし、日立も12分過ぎより連続4ゴールをあげて7-6と逆転、その後一進一退の攻防を見せたが、10-9と日立が1点をリードして折り返した。

後半に入り、日立はブラザー・荒木にマンツーマンをしき、これが成功して4連続得点をあげ、ブラザーのミスも出て点差を広げて快勝した。

得00920020120000
本住水永倉上尾藤田斐木中
〔阿古藤平楠 林 東山安 飯 大永〕
G K F P (審・細沢水) (水)

得0010262720005
津部苗永田岸鶴塚田家毛井
〔日梅阿尾神柳山吉飯岡繁石新〕

◇10月29日(日)
大分県総合体育館

北国銀行 32 (1814 | 1011) 21 ソニ
分 (戦評) 北国が速攻で3点を連取

ソニー永尾がロングで追う。北国はポスト、サイドなどで加点、試合の主導権を握って前半を終了。後半、ソニーは藤元のフェイントや平山の速攻で追うが、北国は速攻、ポスト、ロングなどで着々と加点、ソニーをふり切った。

得0061022100036
石賀元山石本 口山 住尾
〔阿古藤平楠 林 東山安 飯 大永〕
G K F P (審・田原) (原)

得001028731244
戸井田 後田川野 川 金呉
〔北木岩上 丹松北矢 北 金呉〕

◇11月4日(土)
四日市市体育館

得002235000620
戸井田後田川野 川 金森 本
〔北木岩上丹松北矢 北 金森 谷〕

得0070034153005
立 本津苗永長田岸鶴塚田毛井
〔日梅阿尾神柳山吉飯岡石新〕

25の同点に追いつき引き分けた。

得0094040300005
石賀元山本 郷口山 住尾
〔阿古藤平楠 林 東山安 飯 大永〕

◇11月4日(土)
岐阜県民体育館

得0 311252020000
J 大 石佐上石嶋伊熊武羽平
U 角 塚藤田井田原谷藤田山

日立栃木 28 (1513 | 812) 20 北国銀行
〔戦評〕前半立ち上がり10分まではお互いやや足の止まった試合展開でシーソーゲームであったが、その後18分まで日立は得点なく、逆に北国ベースであったが、18分

から日立・尾苗のロングが決まるようになり、25分に13-12と逆転して前半を終了。後半、北国の守りのミスから日

得002235000620
戸井田後田川野 川 金森 本
〔北木岩上丹松北矢 北 金森 谷〕

得0070034153005
立 本津苗永長田岸鶴塚田毛井
〔日梅阿尾神柳山吉飯岡石新〕

立はPT、速攻と連続得点して完全に日立ベースとなり、17分には26-16とリードを広げ、ほぼゲームを決定づけた。

◇11月5日(日)
愛知・枇杷島体育館

ブラザー 29 (1514 | 6) 12 ムネカタ
工 業 (戦評) ブラザーは荒木のロング

シュートが好調に決まり、前半15分までに8-1と全くブラザーのベースの試合となった。一方ムネカタは、ブラザーのロングシュートに対し守りが甘く、14-6で前半を終了。後半開始5分まではムネカタもよく動きベースをつかむかに見えたが、徐々にミスが多くなり、ブラザーが連続して得点、大差のついたゲームとなった。

得0003003150000
妻崎藤川名井橋野野木藤
〔我山伊皆川桜高上菅佐遠〕

得0086344213110
〔阿古藤平楠 林 東山安 飯 大永〕

〔順位〕①日立栃木②北国銀行③
ブラザー工業④JUKI⑤ソニ
国分⑥ムネカタ

各地学生秋季リーグ戦結果

北海道学生

(10月13～15日)札幌中島体育センターほか

函館大	21	21	函館教大
函館大	56	18	北海学園大
函館大	46	14	北大医学部
函館大	49	13	函館教大
函館大	21	21	北大医学部
函館大	39	22	北海学園大
函館大	34	5	小樽商大
函館大	39	18	函館教大
函館大	35	24	北大医学部
函館大	31	19	小樽商大
函館大	67	9	北大医学部
函館大	37	24	函館教大
函館大	18	16	北海学園大
函館大	29	20	北大医学部
函館大	33	18	北大

室蘭工大	18	17	北星大
旭川教大	38	25	道都大
北星大	24	14	北海道工大
釧路教大	32	29	旭川教大
室蘭工大	32	22	道都大
室蘭工大	28	28	道都大
室蘭工大	24	23	旭川教大
釧路教大	16	16	北星大

札幌大	26	20	札幌学院大
札幌大	40	22	学園北見大
札幌大	28	9	北見工大
札幌大	27	12	北見工大
札幌学院大	41	14	学園北見大
学園北見大	25	25	北見工大

北海道短大	22	8	北星大
旭川教大	20	10	北星大
北海道短大	10	9	旭川教大

北海道短大	22	8	北星大
旭川教大	20	10	北星大
北海道短大	10	9	旭川教大

東北学生

(10月5～8日)仙台市体育館

岩手大	31	23	東北大
岩手大	28	25	仙台大
岩手大	29	27	福島大
岩手大	29	27	仙台大
岩手大	31	27	仙台大
岩手大	29	20	東北大
岩手大	29	20	東北大
岩手大	29	25	福島大
岩手大	32	19	東北大
岩手大	33	16	福島大
岩手大	30	18	岩手大
岩手大	27	20	仙台大
岩手大	32	16	福島大
岩手大	25	21	東北大
岩手大	20	15	岩手大
岩手大	31	23	福島大
岩手大	20	16	東北福祉大

山形大	54	5	日大工学部
山形大	29	28	秋田大
山形大	31	25	弘前大
山形大	40	23	日大工学部
山形大	35	16	秋田大
山形大	20	18	弘前大
山形大	39	16	日大工学部
山形大	39	10	日大工学部
山形大	27	19	宮教大
山形大	28	19	秋田大

山形大	29	28	秋田大
山形大	31	25	弘前大
山形大	40	23	日大工学部
山形大	35	16	秋田大
山形大	20	18	弘前大
山形大	39	16	日大工学部
山形大	39	10	日大工学部
山形大	27	19	宮教大
山形大	28	19	秋田大

山形大	29	28	秋田大
山形大	31	25	弘前大
山形大	40	23	日大工学部
山形大	35	16	秋田大
山形大	20	18	弘前大
山形大	39	16	日大工学部
山形大	39	10	日大工学部
山形大	27	19	宮教大
山形大	28	19	秋田大

弘前大	28	19	秋田大
弘前大	27	19	宮教大
弘前大	39	10	日大工学部
弘前大	39	16	日大工学部
弘前大	20	18	弘前大
弘前大	39	16	日大工学部
弘前大	39	10	日大工学部
弘前大	27	19	宮教大
弘前大	28	19	秋田大

福島大	26	11	岩手大
福島大	34	8	宮教大
福島大	29	5	岩手大
福島大	27	10	宮教大
福島大	28	7	宮教大
福島大	34	13	福島大

福島大	31	21	山形大
福島大	26	24	宮教大

関東学生

男子1部

男子2部

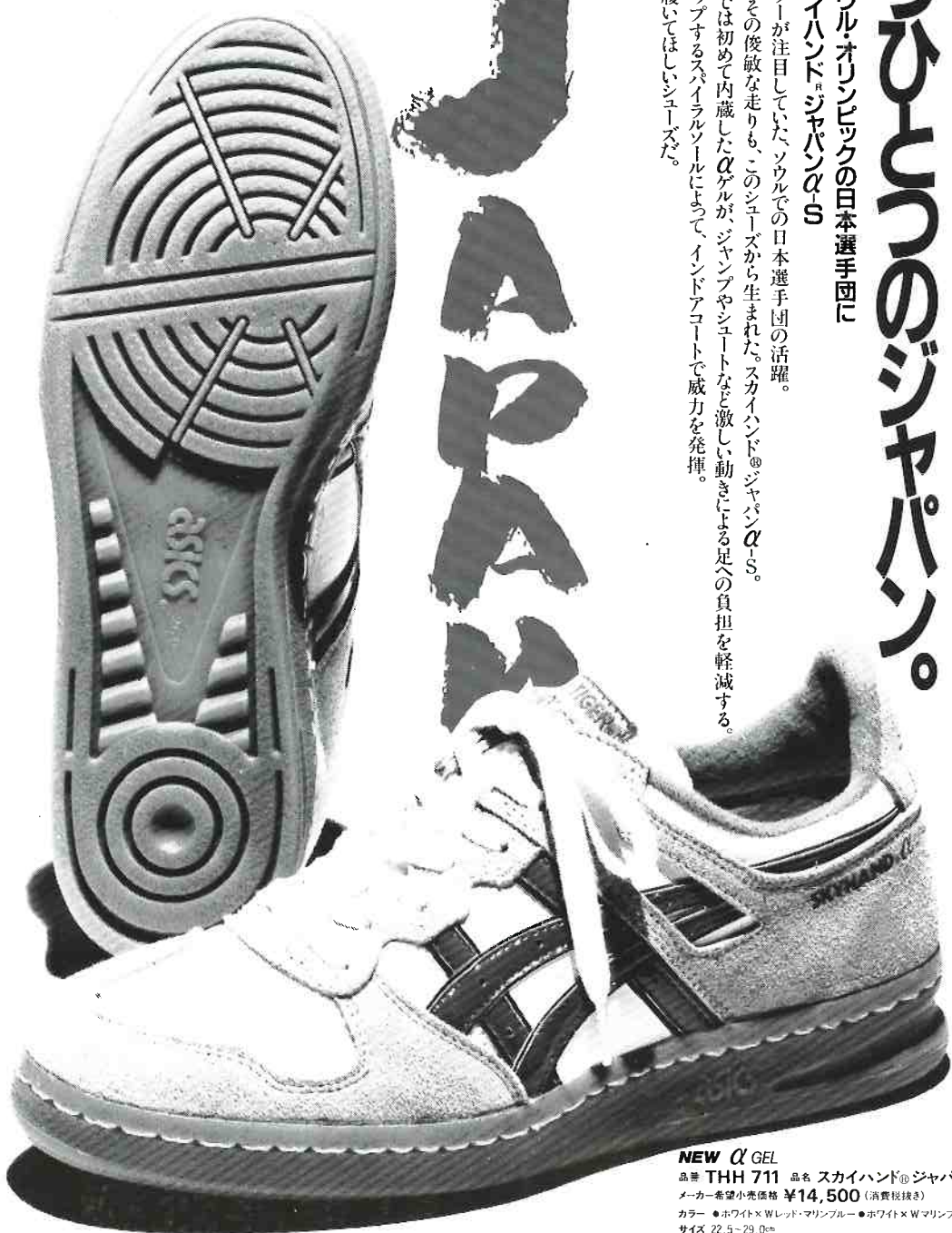
筑波大	24	15	順大
筑波大	31	19	順大
筑波大	28	22	中日大
筑波大	28	22	中日大
筑波大	25	21	順大
筑波大	32	20	慶大
筑波大	24	18	慶大
筑波大	30	19	慶大
筑波大	29	21	慶大
筑波大	26	23	順大
筑波大	24	24	順大
筑波大	29	24	順大
筑波大	32	20	順大
筑波大	26	17	順大

※東北大、福島大共に1部残留。
 (順位)①日本体育大②筑波大③早稲田大④日本大⑤順天堂大⑥国士館大⑦中央大⑧慶応大

ソウルで活躍した、 もっぴーのジャパン。

これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に
採用されたスカイハンド®ジャパンα-S

すべてのインドポラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。
その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンド®ジャパンα-S。
インドポルシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。
吸いこくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。
これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。



NEW α GEL

品番 THH 711 品名 スカイハンド® ジャパンα-S

メーカー希望小売価格 ¥14,500 (消費税抜き)

カラー ●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レット
サイズ 22.5-29.0cm

asics TIGER

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費善相談室までどうぞ
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL (078) 303-2233(専用)・(078) 303-3333(大代表) 株式会社 アシックス
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL (03) 624-1814(専用)・(03) 624-2221(大代表)
●Rは®アシックスの登録商標です

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』

第二九四号

昭和四十年六月十七日 平成二年一月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成二年二月一日 発行

東京都渋谷区神宮前1-11-11
電話 代表 (03) 2336-1111
振替 東京 六一五八三四八番
編集兼 安藤純光
発行人

定価三百五十円
(年間購読料)
(三千三百円)

桜田淳子は、東洋証券が、
好きになっちゃったみたいです。

10万円から始める、あかるい財テク

中期国債ファンド

公社債投資信託・追加型 (設定・運用は日興投信)



東洋証券

■本 店：〒103 東京都中央区日本橋1-20-5 ■電 話：03(274)0211
■全 国 43 支 店 ■海 外：ロンドン・ニューヨーク・香港
■買 入 金 額：2,900万円 ■東 京・大 阪・広 島 一 部 上 場